

令和5年度

予算概要

道路局

目 次

ページ

◇令和5年度 道路局予算案について	1
◇主な事業・取組	
Ⅰ 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備	3
～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～	
1 広域的な道路ネットワークの形成	
2 市内道路ネットワークの充実	
Ⅱ 市民生活の安全・安心の確保	11
～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～	
1 誰もが安全・安心に利用できる道路空間	
2 防災・減災対策	
3 計画的な保全・更新・維持管理	
Ⅲ 魅力あるまち・みちづくり	29
～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～	
1 地域交通の確保	
2 自転車施策の推進	
3 駅周辺の移動環境の確保	
4 まちの魅力創出	
5 財源確保の取組	
◇令和5年度 道路局予算案	38
◇債務負担行為	47

令和5年度 道路局予算の編成

◆道路局では、一部の事業を令和4年度2月補正予算と一体的に編成しており、本文中の予算額の表記について、補正のあった事業は＜ ＞の15か月予算の金額を記載しています。

〇〇〇〇事業	〇〇億〇〇〇〇万円	＜〇〇億〇〇〇〇万円＞	（〇〇億〇〇〇〇万円）
	↑ R5当初	↑ R5当初＋R4補正	↑ R4当初＋R3補正 （R4当初のみの事業もあり）

◆ 再掲した事業については本文中に【一部再掲】又は【再掲】と表記しています。

<コラム一覧>

コラム①	圏央道の整備状況と横浜環状南線・横浜湘南道路について	5頁
コラム②	公田ⅠCに接続する上郷公田線・桂町トンネル工事を着実に推進中	5頁
コラム③	鴨居上飯田線、4年度末に開通（さちが丘地区～二俣川駅付近）	6頁
コラム④	相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業の推進	7頁
コラム⑤	渋滞対策に取り組みます	10頁
コラム⑥	子どもの通学路交通安全対策の進め方	12頁
コラム⑦	高まる自然災害リスクに対応、 時間降雨量約60mm対応する河川改修に着手	16頁
コラム⑧	水難事故防止のための普及啓発活動	19頁
コラム⑨	スマホ版「横浜市水防災情報」・ SNS発信でWebページの閲覧急上昇	19頁
コラム⑩	災害への備え～震災対策訓練と防災協定～	20頁
コラム⑪	橋梁維持管理の「事後保全」から「予防保全」への転換に向けて	21頁
コラム⑫	建設業の働き方改革への対応	23頁
コラム⑬	街路樹による良好な景観の創出・育成	24頁
コラム⑭	道路照明灯のLED化により、脱炭素化を推進します	25頁
コラム⑮	河道等安全確保緊急対策事業による対策強化！ ～河川・水路・雨水調整池等の治水安全度の確保～	26頁
コラム⑯	デジタル化を推進中（part1）～道路編～	27頁
コラム⑰	デジタル化を推進中（part2）～河川編～	28頁
コラム⑱	十日市場歩道橋にエレベーターが完成しました	34頁
コラム⑲	皆様の寄附（ふるさと納税）を活用して事業を進めていきます	35頁
コラム⑳	「水辺愛護会、ハマロード・サポーター全体交流会」について	36頁

令和5年度 道路局予算案について

1 基本目標

本市がめざす「子育てしたいまち」を実現するため、横浜経済の活性化とともに市民生活の安全・安心を支える強靱な都市基盤の構築や脱炭素社会の形成に向けて、渋滞対策や交通安全対策、地震・治水対策・老朽化対策、地域交通の充実や自転車活用などを推進し、住み続けたい都市・選ばれる都市を目指し、「チーム道路」の総力を結集させて取り組みます。

2 目標達成に向けた施策

(1) 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備 ～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

横浜環状道路の早期整備を実現することで、高速道路ネットワークを充実させ、横浜港の国際競争力の強化をはじめとする広域的なアクセス性の強化、災害時の代替道路の確保、幹線道路における渋滞の緩和などを図ります。加えて、都市計画道路等の整備、「開かずの踏切」の解消に向けた連続立体交差事業を推進することで、主要渋滞箇所の削減をめざし、横浜経済の活性化や市民生活の利便性・安全性向上を図ります。

(2) 市民生活の安全・安心の確保 ～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

通学路における子どもの交通事故死ゼロを目指し、ビッグデータや事故データ等を活用・分析した予防保全型の交通安全対策を推進するなど、子どもから高齢者まで誰もが安全に利用できる道路空間を実現します。

激甚化する自然災害や切迫する巨大地震による被害を最小限に抑えるため、橋梁や歩道橋の地震対策事業や無電柱化推進事業、道路がけ防災対策事業、河川改修事業や水防事業等、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を着実に進めます。

老朽化する施設が増加する中であっても、橋梁や歩道橋、河川施設等について、点検結果を踏まえた計画的な保全・更新により、効率的かつ効果的な維持管理を行い、将来にわたる安全性の確保を図ります。また、道路台帳図証明のオンライン受付の開始などデジタル技術を活かしてサービスの向上を図るDXを推進し、市民・事業者の利便性向上を図ります。

(3) 魅力あるまち・みちづくり ～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

地域交通の確保やバス路線の維持・充実、市内広域でのシェアサイクル事業社会実験をはじめとした自転車活用の推進とともに、バリアフリー歩行空間の整備など、移動環境の確保を進めます。

「ハマロード・サポーター」や「水辺愛護会」など、市民・事業者・学校と協働して良好な道路・河川環境を保ちます。



横浜環状南線・横浜湘南道路
(高架橋整備: 栄IC・JCT)



連続立体交差事業
(着工の様子: 相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近))



通学路の交通安全対策
(速度抑制対策: 南区大岡小学校周辺)



河川改修
(護岸改修・橋梁架替: 阿久和川)



地域交通の確保
(地域交通サポート事業: 泉区新橋地区)

3 予算総括表

<一般会計>

令和5年度の一般会計における当初予算と令和4年度2月補正予算の一部を含めた予算額は、758億5,008万円、対前年度比68億8,386万円、8.3%の減となっています。

なお、横浜市道路建設事業団関連事業費及び道路費負担金の予算を除くと712億1,941万円、対前年度比2億719万円、0.3%の減となります。

(単位:千円)

科 目	令和5年度 当初予算額 (A)	令和4年度 2月補正予算 の一部 (B)	令和4年度 2月補正予算の 一部を含めた額 (A)+(B)=(C)	令和4年度予算 (2月補正予算の 一部を含む) (D)	増▲減額 (C)-(D)	増▲減率
歳 出	73,629,046 (68,998,384)	2,221,029	75,850,075 (71,219,413)	82,733,939 (71,426,607)	▲ 6,883,864 (▲207,194)	▲8.3% ▲0.3%
12款 道路費	72,730,583	2,221,029	74,951,612	81,689,268	▲ 6,737,656	▲8.2%
1項 道路維持管理費	24,901,073	1,000,000	25,901,073	25,105,814	795,259	3.2%
2項 道路整備費	44,120,731	255,029	44,375,760	51,625,978	▲ 7,250,218	▲14.0%
3項 河川費	3,708,779	966,000	4,674,779	4,957,476	▲ 282,697	▲5.7%
17款 諸支出金	898,463	0	898,463	1,044,671	▲ 146,208	▲14.0%

財源内訳	73,629,046	2,221,029	75,850,075	82,733,939	▲ 6,883,864	▲8.3%
特定財源	44,588,294	1,218,265	45,806,559	47,477,784	▲ 1,671,225	▲3.5%
国庫支出金	12,836,439	462,265	13,298,704	13,694,633	▲ 395,929	▲2.9%
県支出金	762,580	301,000	1,063,580	1,073,580	▲ 10,000	▲0.9%
使用料及び手数料	9,581,813	0	9,581,813	9,610,891	▲ 29,078	▲0.3%
諸収入等	3,895,462	0	3,895,462	3,800,680	94,782	2.5%
市債	17,512,000	455,000	17,967,000	19,298,000	▲ 1,331,000	▲6.9%
一般財源	29,040,752	1,002,764	30,043,516	35,256,155	▲ 5,212,639	▲14.8%

※()内の数字については、道路建設事業団及び道路費負担金にかかる事業費を除いています。

<自動車駐車場事業費会計>

令和5年度の自動車駐車場事業費会計の予算額は、3億5,080万円、対前年度比1億2,390万円、26.1%の減となっています。

(単位:千円)

科 目	令和5年度 当初予算額 (A)	令和4年度 当初予算額 (B)	増▲減額 (A)-(B)	増▲減率
歳 出	350,799	474,698	▲ 123,899	▲26.1%
1款 自動車駐車場事業費	350,799	474,698	▲ 123,899	▲26.1%
1項 運営費	212,175	229,844	▲ 17,669	▲7.7%
2項 公債費	133,624	239,854	▲ 106,230	▲44.3%
3項 予備費	5,000	5,000	0	0.0%

財源内訳	350,799	474,698	▲ 123,899	▲26.1%
特定財源	113,840	148,509	▲ 34,669	▲23.3%
国庫支出金	0	0	0	0.0%
使用料及び手数料	0	0	0	0.0%
諸収入等	113,840	148,509	▲ 34,669	▲23.3%
一般会計繰入金	236,959	326,189	▲ 89,230	▲27.4%

主な事業・取組

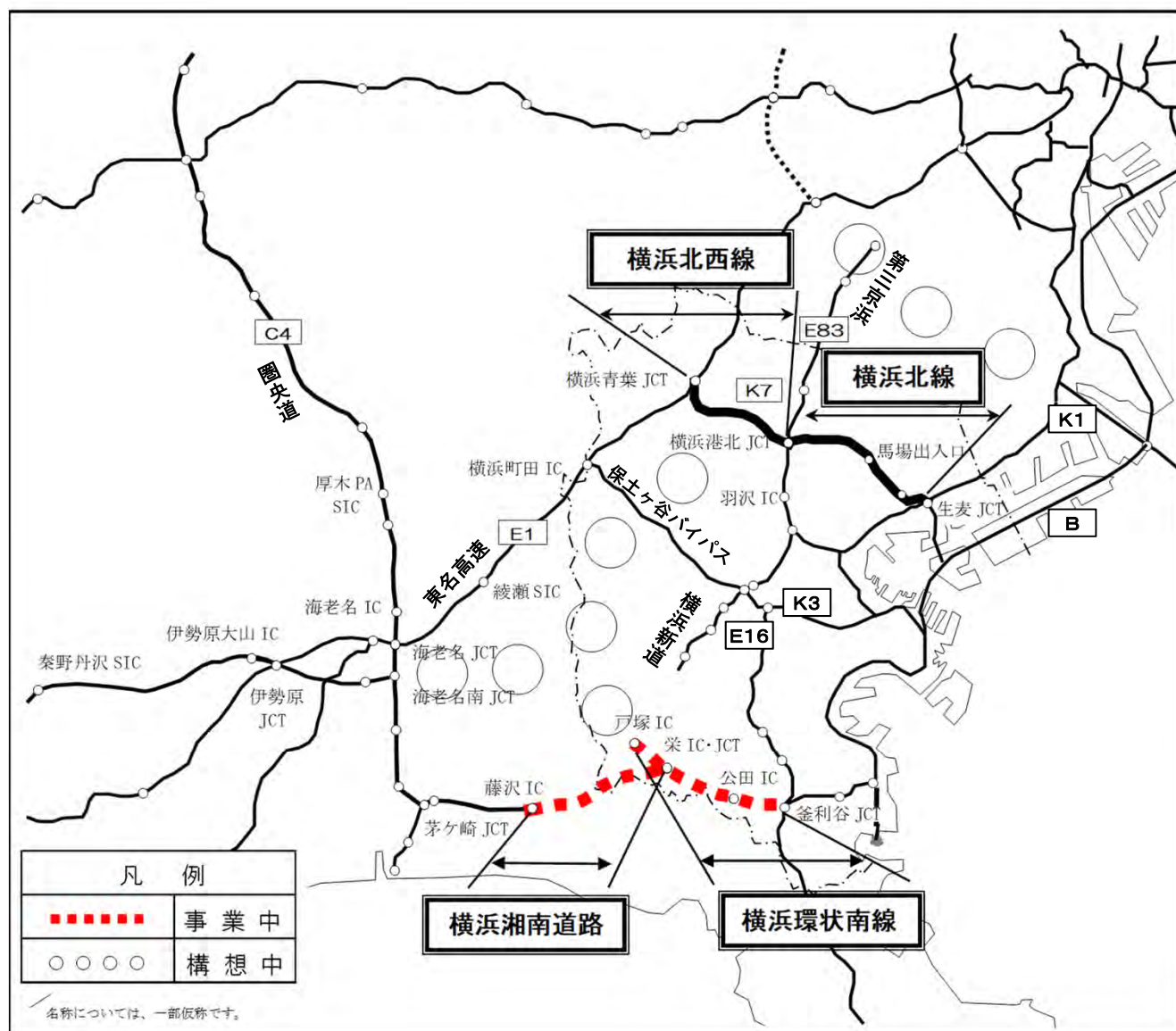
I 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備 ～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

1 広域的な道路ネットワークの形成

横浜環状道路等の整備 192億9,104万円（221億3,574万円）

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の一部を構成する横浜環状南線及び横浜湘南道路の整備促進を図ります。

また、横浜北西線において、立替施行の実施に伴う支払いを行います。



ア 横浜環状南線・横浜湘南道路 76億9,104万円（105億3,074万円）

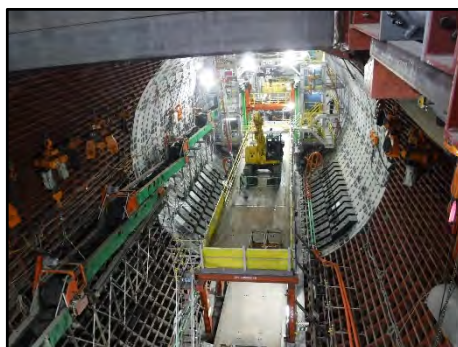
国土交通省及び東日本高速道路株式会社と連携し、事業推進に取り組みます。
また、横浜環状南線・横浜湘南道路の各インターチェンジに接続する関連街路
(上郷公田線、田谷線、横浜藤沢線、環状3号線)の整備を進めます。



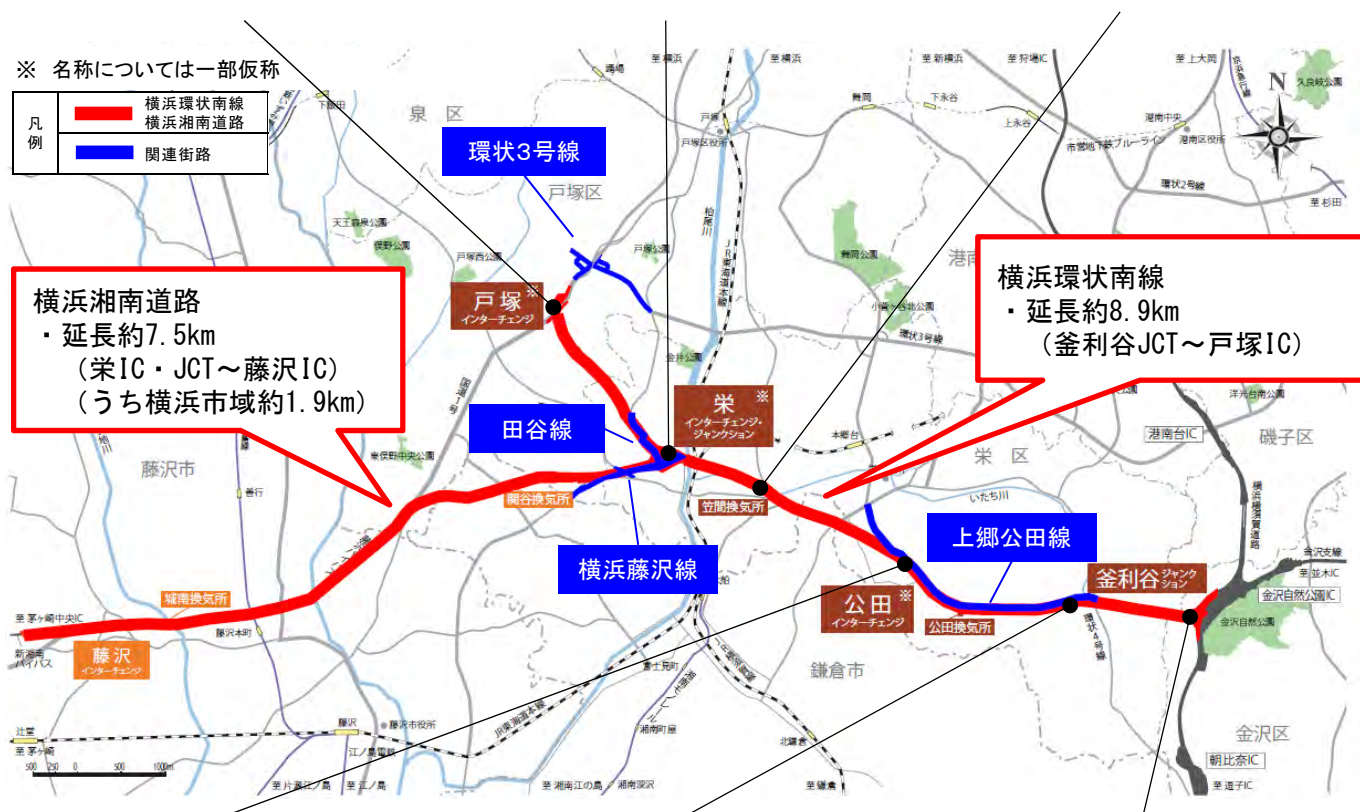
戸塚IC築造工事
(戸塚区原宿)



栄IC・JCT築造工事
(栄区田谷町)



公田笠間トンネル工事
(栄区飯島町)



公田IC築造工事
(栄区公田町)



桂台トンネル工事
(栄区上郷町)

釜利谷JCT改築工事
(金沢区釜利谷町)

写真提供:国土交通省・東日本高速道路株式会社

コラム① 圏央道の整備状況と横浜環状南線・横浜湘南道路について



圏央道は、都心から半径約40～60km、延長約300kmの高規格幹線道路で、全線の約9割が開通しています。

本道路の順次開通等により、都心から圏央道へ交通が転換しており、首都圏の物流が大幅に改善するとともに、大型物流施設等の民間投資も誘発しています。

圏央道の西側区間で、唯一の未開通区間であるため、引き続き、工事の安全安心な施工を最優先としつつ、早期開通を事業者に働きかけていきます。

図面：「よこかんみなみHP」(東日本高速道路株式会社)資料を加工し作成

コラム② 公田ICに接続する上郷公田線・桂町トンネル工事を着実に推進中

上郷公田線は、環状4号線の混雑緩和や栄区内の交通需要に対応するとともに、公田インターチェンジで横浜環状南線に接続する、延長3.2kmの都市計画道路です。

現在、上郷公田線の公田地区では、桂町トンネル(延長331m)の工事を進めています。

令和3年3月にトンネル掘削を開始し、6年3月末完成に向けて工事を進めています。



※ 名称については一部仮称です。



桂町トンネル工事

イ 横浜北西線 116億円 (116億円)

横浜北西線事業では、事業費負担の平準化のため、首都高速道路株式会社が事業費の一部を立て替える立替施行を実施しており、令和6年度まで支払いが継続します。

この立替施行の支払いには、横浜北西線の道路構造物等を売却した収入を財源として活用します。

2 市内道路ネットワークの充実

(1) 都市計画道路の整備【一部再掲】 77億8,979万円（104億3,877万円）

市域の一体性を高めながら都市機能の強化を図るため、都市計画道路の整備を進めます。また、未着手路線について、事業化に向けて測量・設計等を進めます。

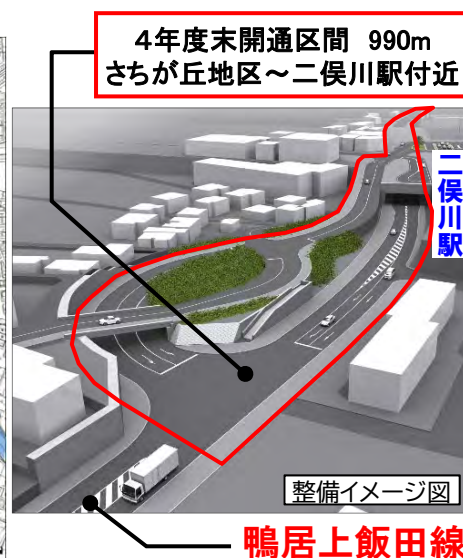
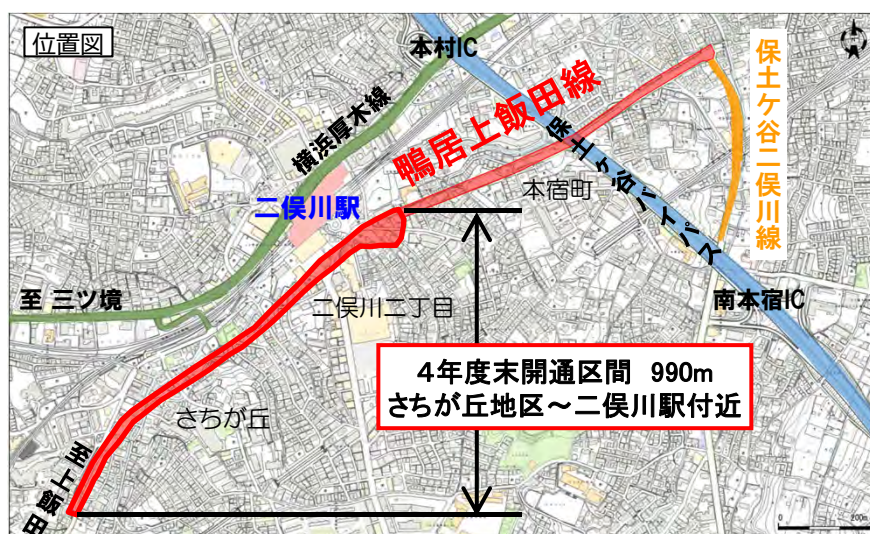
- ・鴨居上飯田線【本宿・二俣川地区、さちが丘地区】（旭区）
- ・保土ヶ谷二俣川線【本宿地区】（旭区）
- ・泥亀釜利谷線【寺前地区】（金沢区）
- ・横浜逗子線【釜利谷六浦地区】（金沢区）
- ・東京丸子横浜線【綱島地区】（港北区）
- ・山下長津田線【鴨居地区】（緑区）
- ・恩田元石川線【鉄地区】（青葉区）
- ・環状3号線【汲沢地区、中田地区※】（戸塚区、泉区）※令和5年度 新規事業化
- ・桂町戸塚遠藤線【上倉田戸塚地区】（戸塚区）
- ・桜木東戸塚線【平戸地区】（戸塚区） など29箇所

コラム③ 鴨居上飯田線、4年度末に開通（さちが丘地区～二俣川駅付近）

都市計画道路鴨居上飯田線は現在、二俣川駅南口付近を中心に、東西に約2kmの区間で事業を進めています。このうち、さちが丘地区から二俣川駅付近までの約1kmの区間について、令和4年度末に開通します。

これにより、さちが丘方面と二俣川駅が直結し、駅へのアクセスが飛躍的に向上します。

引き続き、残る区間の開通に向けて全力で取り組んでいきます。



(2) 連続立体交差事業 39億2,100万円（6億3,200万円）

都市内交通の円滑化や都市の活性化を図るため、相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業を進めます。

用地取得を進めるとともに、シールドトンネルの発進立坑部や鶴ヶ峰駅部などにおいて、工事に着手します。

【事業区間：西谷駅～二俣川駅 約2.8km】
【踏切除却数：10箇所（うち開かずの踏切9箇所）】



コラム④ 相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業の推進

平成28年度から事業化に向けた検討を進め、当初目標を1年前倒し、令和4年1月に都市計画決定、同年6月に事業認可を取得しました。

4年11月には、関係者の皆様のご理解とご協力により、着工の運びとなり、旭公会堂にて着工式を開催しました。

地域の方々はじめ多数の方々にご列席いただき、工事の安全を願って鍬入れを行いました。



令和4年11月26日着工式（山中市長のあいさつ）

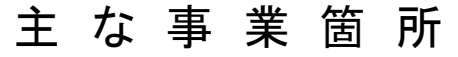


令和4年11月26日着工式（鍬入れの儀）

(3) 国道の整備 16億7,907万円 (17億5,378万円)

本市の道路ネットワークの骨格を担う国道の改良を進めます。

- ・国道1号【保土ヶ谷橋工区】（保土ヶ谷区）（工事、用地取得、設計など）
- ・国道1号【不動坂交差点】（戸塚区）（歩道橋工事など）
- ・国直轄事業【国道1号、15号、16号、246号、357号】（改築、電線共同溝事業など）



横浜環状南線等関連街路
都市計画道路
連続立体交差
補助国道



(4) 道路改良【一部再掲】 **18億2,670万円 (21億796万円)**

市民生活やバス交通の利便性の向上を図るため、歩道設置や交差点改良によるボトルネックの解消等、市民生活に密着した道路改良事業を進めます。

- ・市道上大岡第149号線・第168号線（南区）
- ・市道三ツ沢第398号線（保土ヶ谷区）令和5年度 完成予定
- ・県道川崎町田【青砥町地区】（緑区）
- ・県道横浜生田【平原橋交差点】（青葉区）令和5年度 完成予定
- ・市道矢部第281号線（戸塚区） など63箇所

主 な 事 業 箇 所



歩道整備
市道上大岡第149号線・第168号線(南区大岡五丁目)



道路整備
市道三ツ沢第398号線(保土ヶ谷区鎌谷町)



歩道整備・交差点改良
県道川崎町田(緑区青砥町)

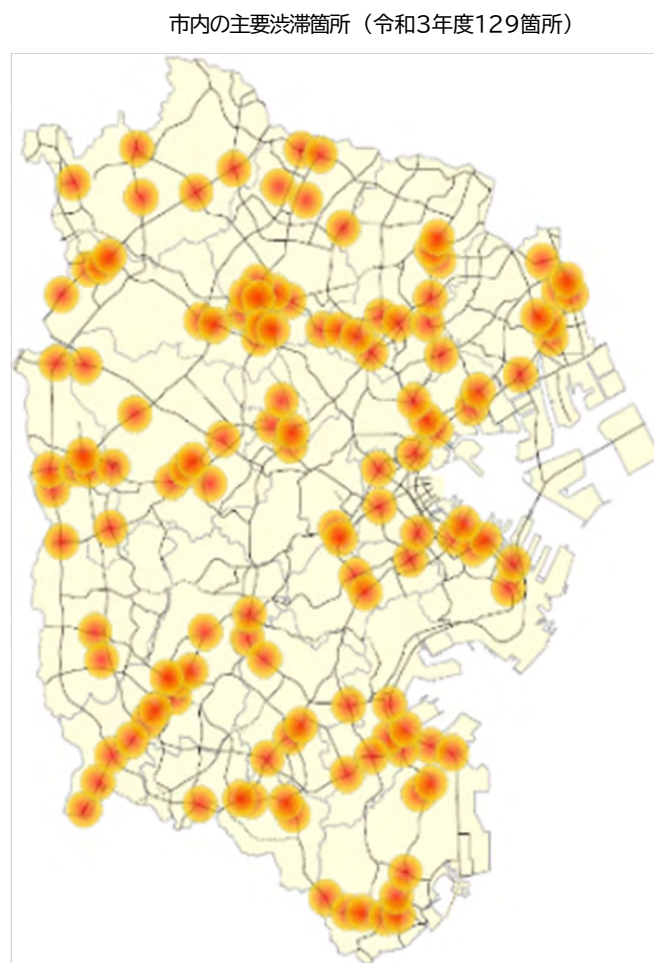


交差点改良・右折レーン設置
県道横浜生田(青葉区元石川町)【平原橋交差点】

コラム⑤ 渋滞対策に取り組みます

市内には、多くの渋滞箇所があり、渋滞による時間損失や、企業収益・生産性の低下、環境への影響などによる社会的損失は大きな課題となっています。

横浜環状道路や都市計画道路の整備、連続立体交差事業、交差点改良などにより、道路ネットワークの充実を進めるとともに、渋滞解消に資する事業に重点的に取り組むことで、渋滞箇所を概ね10年で2割削減を目指していきます。



【出典】神奈川県移動性向上委員会資料を基に作成



混雑する市内の道路

（５）深谷通信所跡地利用関連道路計画検討 2,000万円（2,000万円）

深谷通信所跡地（平成26年6月返還）において、跡地利用基本計画を踏まえ、外周道路及び環状3号線・4号線との連絡道路について、関係部署と連携し、都市計画の手続きに取り組んでいきます。

Ⅱ 市民生活の安全・安心の確保 ～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

1 誰もが安全・安心に利用できる道路空間

(1) 子どもの通学路交通安全対策事業【新規】 3億円

通学路における子どもの交通事故死ゼロに向けて、警察が保有する交通事故データをもとに、全ての小学校通学区域について事故箇所を可視化した地図を作成し、地域の方々とともに交通安全対策に取り組めます。このうち、交通安全推進校として4校を選定し、ETC2.0などのビッグデータも活用して、登下校の見守り活動や交通安全教育の充実、ハンブや狭さくなど物理的デバイスの整備、あんしんカラーベルトの設置などソフト・ハードの交通安全対策を重点的に実施します。

(2) 交通安全施設の整備・補修【一部再掲】 9億1,695万円（7億6,395万円）

防護柵、案内標識、あんしんカラーベルト等の整備・補修を行うとともに、エレベーターについては経年や点検結果を踏まえた更新を実施します。

(3) 子どもの交通安全教育・啓発事業【一部再掲】 2,105万円（1,900万円）

小学生を対象に歩行時、自転車乗車時のルールを指導教育する「はまっ子交通あんぜん教室」を開催します。また、「スクールゾーン活動のしおり」「はたふり誘導ハンドブック」等を作成し、スクールゾーン対策協議会の活動を支援します。

交通安全推進校では、見守り活動の支援強化や放課後の時間を活用した交通安全教室の実施など、重点的に取組を進めます。

(4) 通学路等の歩道設置【一部再掲】 14億2,640万円（16億1,705万円）

地域の方々や小学校と連携し、通学路等における歩行空間の確保などの交通安全対策を実施します。

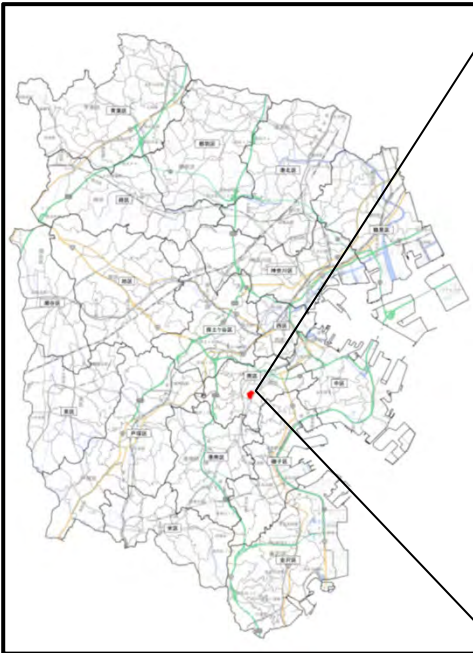
- ・市道原宿第95号線（栄区）
- ・一般県道瀬谷柏尾（瀬谷区） など 41箇所



コラム⑥ 子どもの通学路交通安全対策の進め方

小学校通学区域(340校)

【提供するマップイメージ】



事故データを可視化する



※市内事故データを可視化し、
全小学校に提供

左図に加え、速度データ(ETC 2.0ビッグデータ)を可視化する ※南区大岡小学校周辺地区の事例



※交通安全推進校の事故データ、
ETC2.0 ビッグデータ等を分析し、提供

《対策例》

全小学校

●ソフト対策

- ・小学校での交通安全教室
- ・地域の協力による見守り活動
- ・幼児訪問指導、保護者向け講話



スクール・アソシエーション対策協議会



見守り活動
(はたふり)



交通安全教室

●ハード対策

- ・路面標示、区画線、
あんしんカラーベルト、交差点カラー舗装 等



区画線設置



あんしんカラーベルト



交差点カラー舗装

交通安全推進校

(R5:4地区／中期計画で10地区)

●ソフト対策

- ・交通安全教室、幼児訪問指導、
保護者向け講話
- ・見守り活動の支援
- ・放課後の時間を活用した交通安全教室

【拡充】

【強化】

【新規】

ソフト・ハード対策
ともに重点化

通学区域内で、
点ではなく、
線的・面的に対策

●ハード対策

- ・左に加え、物理的デバイス
ハンブ、狭さく、ゾーン30プラス 等



ハンブ

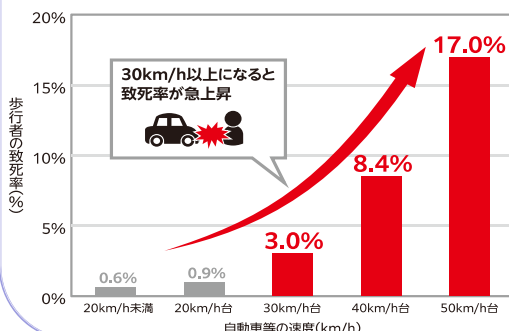


狭さく



ゾーン30プラス

▼走行速度30km/h以下を目標



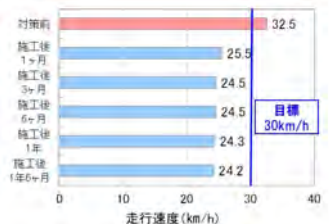
▼対策実施後も効果を検証

対策前後の走行速度
(南区大岡小学校周辺地区)



速度抑制対策を実施した箇所では、速度が
30km/h以下に抑制されていることを確認

対策効果の持続性
(緑区中山町地区)



速度が30km/h以下に継続して
抑制されていることを確認

(5) 通学路等の安全確保に資する都市計画道路整備【再掲】 29億2,456万円 (23億9,329万円)
生活道路へ流入する通過交通を幹線道路に転換するための都市計画道路の整備などを実施します。

(6) 交通安全教育・啓発事業【一部再掲】 3,660万円 (3,524万円)

幼児交通安全訪問指導や、高齢者を対象とした交通安全教室の開催等、世代に応じた交通安全教育を行います。
また、関係機関・団体等と連携し、強化月間等に合わせた啓発を実施するとともに、歩行中の事故防止に効果的な反射材の配布・啓発を進めます。



幼児交通安全訪問指導

(7) 私道対策 8,600万円 (8,600万円)

私道の舗装工事等への助成や、市民要望による私道整備を進めます。
また、私道を公道に移管するための測量費等の助成を行います。



私道整備助成実施前(港北区)



私道整備助成実施後(港北区)

(8) 踏切の安全対策（歩行者対策） 4億4,160万円 (2億2,800万円)

歩行者の安全な通行に課題のある踏切について順次、踏切拡幅等の安全対策を進めます。

ア 踏切拡幅等

- ・金沢八景（逗）第二踏切（金沢区）

イ 跨線人道橋の整備

- ・樹源寺踏切（保土ヶ谷区）
- ・生見尾踏切（鶴見区）



樹源寺踏切(保土ヶ谷区)現況



跨線人道橋の完成イメージ
(令和5年度供用開始予定)

(9) 連続立体交差事業【再掲】 39億2,100万円 (6億3,200万円)

2 防災・減災対策

(1) 地震対策（橋梁・歩道橋） 19億9,867万円 <20億4,809万円>（15億9,059万円）

ア 橋梁の地震対策 5億5,800万円（6億1,600万円）

災害時の応急活動や物資輸送を支える緊急輸送路等にある「重要橋梁」のうち地震対策が必要な375橋について、大規模地震により甚大な被害を受け、通行に支障を生じることがないように地震対策を優先的に進め、これまで369橋の対策が完了しています。熊本地震で被害が生じた構造と同形式の橋梁を含む6橋の対策が残っており、引き続き地震対策を進めています。

また、緊急輸送路等以外の道路にある「一般橋梁」についても、老朽化対策と合わせて地震対策を進めています。

- ・星和橋（保土ケ谷区）
- ・谷津坂跨線橋（金沢区）
- ・新横浜陸橋（港北区）
- ・三ツ境橋（瀬谷区）



耐震補強工事:新横浜陸橋(港北区)

イ 歩道橋の地震対策 2億1,017万円 <2億5,959万円>（2億5,959万円）

横浜市地震防災戦略に基づき、緊急輸送路第一次路線上にある歩道橋136橋の地震対策を平成24年度から進めており、令和5年度に歩道橋地震対策の完了を目指します。

- ・落橋防止装置の設置
豊岡歩道橋（鶴見区）
三ッ沢第3歩道橋（西区）
鳥山町歩道橋（港北区）
折本歩道橋（都筑区）
小雀町歩道橋（栄区） など14橋



通町歩道橋(南区):落橋防止装置
令和4年11月完成



東神奈川駅前第一歩道橋(神奈川区):
落橋防止装置 令和4年11月完成

ウ 鶴見川中下流域の橋梁新設 12億3,050万円 (7億1,500万円)

河川の氾濫や大規模地震時の火災発生など、広域的な避難が必要となった場合に、有効な避難経路となる「鶴見川人道橋」の整備を進めており、令和5年度は、引き続き下部工工事等を進めます。

また、港北区の新羽橋から新横浜大橋の間についても、引き続き橋梁新設に向けた検討を進めます。



橋梁新設工事:鶴見川人道橋(鶴見区)

(2) 無電柱化推進事業 9億4,730万円 <11億3,030万円> (14億6,830万円)

災害時の救急活動や応急復旧を速やかに展開できるよう、環状2号線など無電柱化路線の環状形成に資する路線や、災害時に拠点として機能する区役所等へのアクセス路について、無電柱化を推進します。

また、良好な都市景観形成や観光振興のため、主要な観光地周辺の無電柱化を検討していきます。

コスト縮減・事業費平準化等のための試行として、PFI手法による電線共同溝の整備を、環状3号線(杉田港南台地区 約3km区間)において実施しており、令和5年度は事業者において設計業務を進めます。

ア 緊急輸送路

- ・環状2号線 (鶴見区、神奈川区、港南区、磯子区、港北区)
- ・山下本牧磯子線 (中区)
- ・鶴見溝ノ口線 (鶴見区)
- ・横浜鎌倉線 (南区、港南区、栄区)
- ・環状3号線 (港南区、旭区、磯子区、栄区)
- ・横浜上麻生線 (神奈川区、港北区、青葉区) など8路線

イ 区役所等へのアクセス路

- ・鶴見区、中区、南区、保土ヶ谷区、金沢区、緑区、青葉区、戸塚区、栄区、泉区

無電柱化の状況(港南区役所 令和4年度完成)



整備前



整備後

(3) 河川整備 22億358万円 <31億6,958万円> (34億5,058万円)

治水安全度の向上を図るため、「流域治水」の基盤となる河川改修や流域貯留施設の整備について、浸水被害が発生している河川において重点的に推進します。

ア 大規模特定河川事業 6億6,000万円 (6億9,100万円)

- ・今井川 護岸改修、保土ヶ谷橋橋梁設計 (保土ヶ谷区岩井町)
- ・帷子川 護岸改修、橋梁新設、護岸設計 (旭区川井本町)

イ 都市基盤河川改修事業 13億1,958万円 <22億2,258万円> (22億6,458万円)

- ・今井川 護岸改修、橋梁架替え、用地補償 (保土ヶ谷区榎太坂一丁目)
- ・帷子川 護岸改修、支障移設 (旭区上川井町、白根一丁目)
- ・阿久和川 護岸改修、用地補償 (泉区新橋町、瀬谷区阿久和南二丁目)
- ・和泉川 管理用通路整備、台帳整備 (泉区和泉町) など10河川

ウ 準用河川改修事業 2億1,100万円 <2億7,400万円> (3億8,000万円)

- ・日野川 護岸改修、用地補償 (港南区日野七丁目) など3河川

エ 流域貯留浸透事業 1,300万円 (1億1,500万円)

- ・既設雨水調整池容量拡大 (泉区新橋町 宮古A雨水調整池)

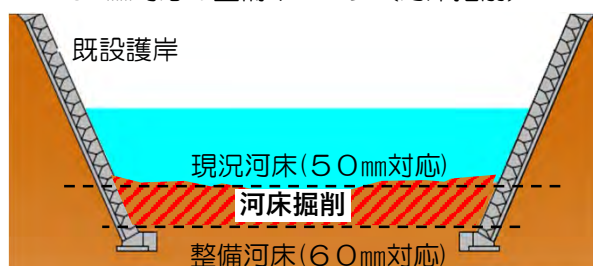
コラム⑦ 高まる自然災害リスクに対応、時間降雨量約60mm対応する河川改修に着手

近年の気候変動により大雨が増加し、自然災害リスクが高まっています。このため、令和2年度より全国の河川で治水対策を充実させるために「流域治水」の考えが国より示され、3年度には市内河川においても「流域治水プロジェクト」が策定されました。

「流域治水プロジェクト」では60mm対応を進めることを位置づけており、さらなる治水安全度の向上に向けて市内河川の整備水準を50mmから60mmに引き上げる必要があります。

このため、下流区間の河川管理者である国や県との協議が整った河川から順次60mm対応に着手し、治水安全度の向上を目指します。

60mm対応の整備イメージ (河床掘削)



鶴見川水系流域治水プロジェクト (R3.3策定)

帷子川水系流域治水プロジェクト (R3.9策定)

境川水系流域治水プロジェクト (R3.9策定)

大岡川水系流域治水プロジェクト (R3.9策定)



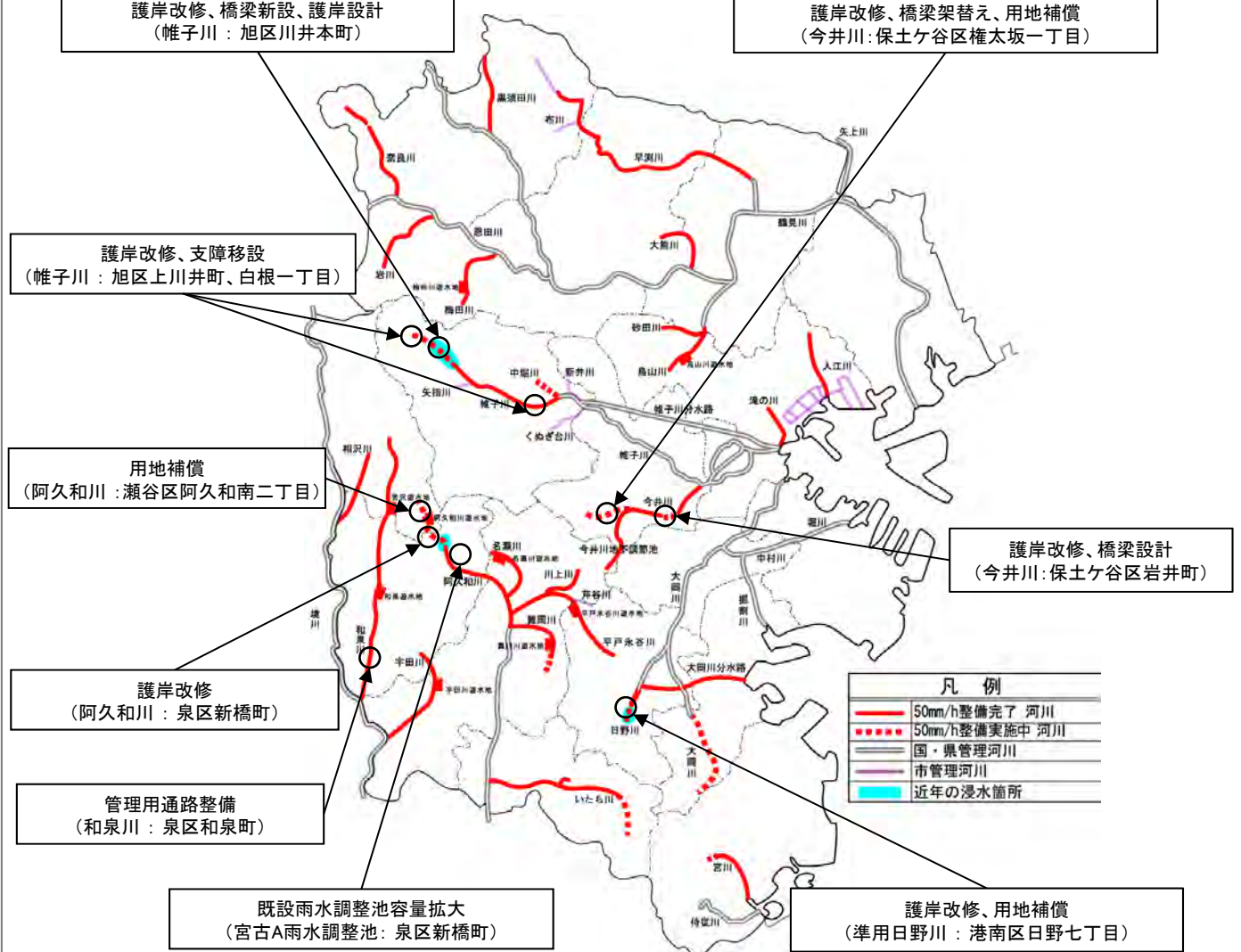
河川整備の主な事業箇所



護岸改修、橋梁新設、護岸設計
(帷子川：旭区川井本町)



護岸改修、橋梁架替え、用地補償
(今井川：保土ヶ谷区権太坂一丁目)



護岸改修、支障移設
(帷子川：旭区上川井町、白根一丁目)

用地補償
(阿久和川：瀬谷区阿久和南二丁目)

護岸改修
(阿久和川：泉区新橋町)

管理用通路整備
(和泉川：泉区和泉町)

既設雨水調整池容量拡大
(宮古A雨水調整池：泉区新橋町)

護岸改修、橋梁設計
(今井川：保土ヶ谷区岩井町)

護岸改修、用地補償
(準用日野川：港南区日野七丁目)



- (4) 水防事業 7,952万円 (7,985万円)
風水害や水難事故から市民の安全を
自助・共助により守るため、気象情報
や河川の水位情報の発信等を行います。

みずぼうさい

ア 水防災情報システム

河川の水位データや河川カメラ
画像をリアルタイムに提供するため、
33箇所の水位計と26箇所の監視カメ
ラの保守管理等を行います。

また、自然排水型遊水地の水位計
等を更新します。



イ 親水拠点警報装置

20箇所の親水拠点警報装置の保守
管理を引き続き実施します。

ウ 水防資器材

水防活動時に使用する資器材を備蓄
するとともに、水害時等に自由に土の
うを活用していただける土のうステー
ションの設置を進めます。



土のうステーション設置例



親水拠点警報装置

エ 水防広報

河川の特徴や危険性、天気との関係性を
学んでもらうため、市内の小学1年生等に
水難事故防止啓発チラシを配布します。

令和4年度は約36,000枚を配布しました。



水難事故防止啓発チラシ

コラム⑧ 水難事故防止のための普及啓発活動

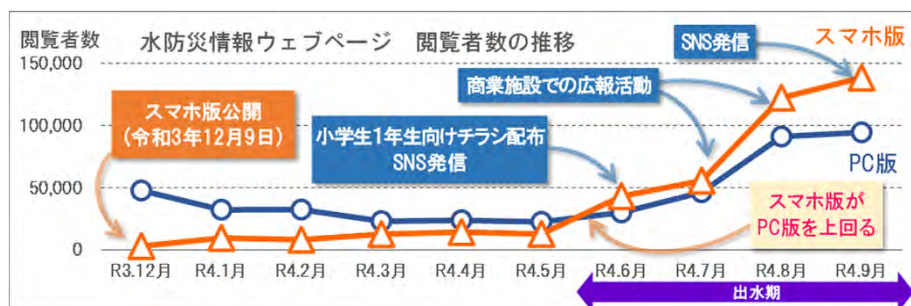
小学校低学年の児童を中心に、紙芝居や映像を使用し、河川の危険性や特徴、環境の知識まで学べる講座を行っています。また、大型商業施設のイベントにて、小学生向けワークショップや水防災啓発の動画放映・パネル展示等を行いました。河川広報及び防災意識向上に取り組む様々な普及啓発活動を行っていきます。



大型商業施設でのイベントの様子

コラム⑨ スマホ版「横浜市水防災情報」・SNS発信でWebページの閲覧急上昇

SNSや本市広報紙「広報よこはま」等による広報活動を実施した結果、多くの方にスマホ版ページも利用していただいております。令和4年6月にはスマホ版がPC版を上回りました。今後とも「逃げ遅れゼロ」を目指し、河川水位情報等の適切な情報発信を行っていきます。



SNS掲載の様子(イメージ図)

(5) 道路がけ防災対策事業 1億2,480万円 (1億2,480万円)

道路を利用する市民の安全と交通機能確保のため、緊急輸送路やバス路線など重要な道路に面した箇所などについて、点検結果に基づく予防保全のための対策工事を進めます。

- ・神奈川区松見町
- ・保土ケ谷区峰岡町二丁目
- ・金沢区釜利谷南二丁目
- ・金沢区朝比奈町
- ・金沢区六浦東三丁目 ほか1か所

令和3年度の対策実施箇所(南区六ツ川四丁目)



対策前



対策後

コラム⑩ 災害への備え～震災対策訓練と防災協定～

備え：その１（震災対策訓練）

大地震発生時における緊急輸送路の点検、被害情報の収集、情報受伝達、道路啓開方針の策定等を迅速・的確に実施することを目的として、（一社）横浜建設業協会をはじめとする関係する皆様と連携した道路局震災対策訓練を実施しています。また、横浜市総合防災訓練など、さまざまな訓練を通じて関係機関との連携を深めるとともに、職員の災害対応能力の向上を図り、災害に備えています。

【道路局震災対策訓練】



道路局本部運営訓練



想定被害の合同シミュレーション訓練
横浜建設業協会（神奈川区会）
・神奈川土木事務所



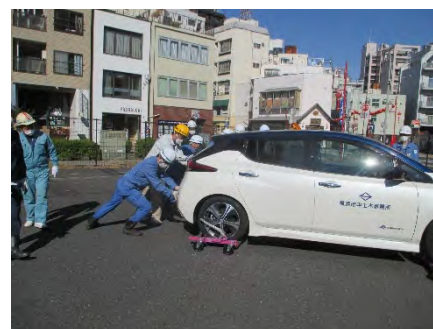
関係団体による被害状況緊急調査の訓練
（神奈川県測量設計業協会横浜支部）
（横浜市地質調査業協会）
（横浜市建設コンサルタント協会）



道路啓開合同訓練（段差の解消訓練）
横浜建設業協会（緑区会）・緑土木事務所



道路啓開訓練（段差の解消訓練）
金沢土木事務所



道路啓開合同訓練（放置車両の移動）
横浜建設業協会（中区会）・中土木事務所

【関係機関との訓練】



【横浜市総合防災訓練】
横浜建設業協会（金沢区会）
・金沢土木事務所



非常時を想定した備蓄燃料の給油訓練
港南台消防出張所・港南土木事務所

様々な団体や
関係機関と
いろいろな訓練を
しているね！



備え：その２（防災協定）

災害に備え、次の団体と防災協定を締結し、災害対応力の強化に取り組んでいます。

- ・（一社）横浜建設業協会
- ・（一社）神奈川県測量設計業協会横浜支部
- ・（一社）横浜市建設コンサルタント協会
- ・（一社）日本建設機械レンタル協会神奈川支部
- ・（一社）神奈川県建設業協会横浜支部
- ・（一社）横浜市地質調査業協会
- ・神奈川県レンタル業協会
- ・（一社）神奈川県バス協会

3 計画的な保全・更新・維持管理

(1) 施設の老朽化対策 64億3,289万円 <64億5,549万円> (62億8,056万円)

「横浜市公共施設管理基本方針」に基づき、各施設の長寿命化を図る保全計画等を策定し、メンテナンスサイクルにより効率的かつ効果的な維持管理・更新等を進めます。

ア 橋梁の老朽化対策 52億1,921万円（50億7,548万円）

本市が管理する道路橋の適切な維持管理を行うため、5年に1度の定期点検を引き続き進めます。

点検結果を踏まえ毎年更新する、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、優先度の高い橋梁の補修や架け替えなどを実施します。

(ア) 定期点検 334橋

(イ) 計画的な補修等

- ・ 矢向第一陸橋（鶴見区）
- ・ 村雨橋（神奈川区）
- ・ 第1柳明橋（泉区）

など103橋

(ウ) 老朽橋の架け替え 末吉橋（鶴見区）

鶴見川に架かる末吉橋は、令和3年12月に仮橋への車道切替が完了し、引き続き既設橋の撤去工事を進めています。

5年度は、新橋の構築工事に着手します。



計画的な補修：第1柳明橋（泉区）



老朽橋架け替え：末吉橋（鶴見区）

イ トンネル等の補修 3億7.829万円 (3億9.209万円)

(ア) 定期点検 38箇所

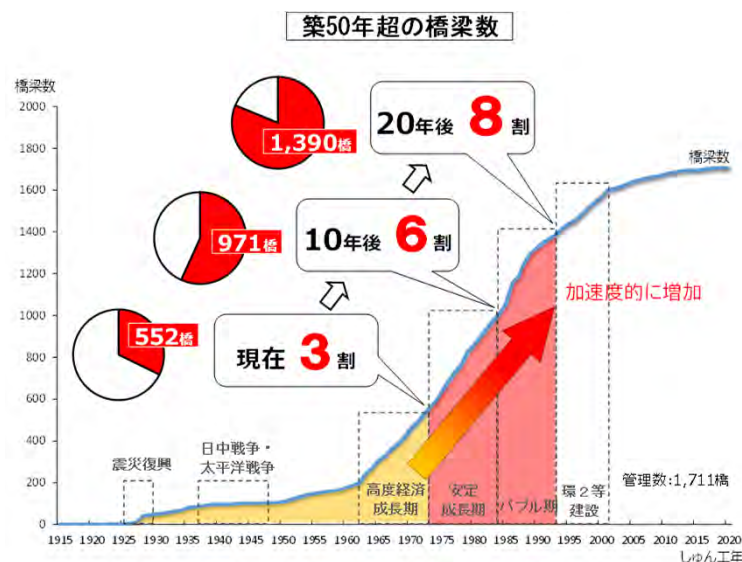
(イ) 計画的な補修 相武隧道（金沢区）など8箇所

コラム⑪

橋梁維持管理の「事後保全」から
「予防保全」への転換に向けて

本市は1,700橋を超える橋梁を管理しています。20年後はこのうち約8割がしゅん工後50年以上となり、適切な修繕を行わなければ事故や通行止めのリスクが増大します。

現状の事後保全型管理から、予防保全型管理への転換を目指し、コスト削減を図りながら効率的な維持管理を進めていく必要があります。



ウ 歩道橋の老朽化対策 5億9,839万円 <6億2,099万円> (6億2,099万円)

本市が管理する歩道橋327橋の適切な維持管理を行うため、5年に1度の定期点検を引き続き進めます。点検結果を踏まえ毎年更新する、道路付属物(歩道橋)長寿命化修繕計画に基づき、優先度の高い歩道橋の補修などを実施します。

(ア) 定期点検 50橋



劣化状況の近接目視(夜間)
打越歩道橋(港南区)



根巻コンクリート打音検査
日野歩道橋(港南区)

(イ) 計画的な修繕 鶴屋町歩道橋(神奈川区)など15橋



計画的な修繕の例(令和4年11月完成 南区 通町歩道橋)

エ 河川施設等の老朽化対策 2億3,700万円 (1億9,200万円)

(ア) 定期点検・調査 河川点検(38河川)

【デジタル化を推進中!(詳細はコラム⑰参照)】

(イ) 計画的な補修 宮川・日野川ほか14河川の補修等
ポンプ排水型遊水地設備の補修(宇田川遊水地)

(2) 市営自動車駐車場の管理運営 3億5,080万円 (4億7,470万円)

【自動車駐車場事業費会計】

都心部における路上駐車対策として設置している地下駐車場について、民間のノウハウを活用しながら、サービス向上と経費の削減を図るため、令和2年度から指定管理者による管理運営を行っています。

- ・ 福富町西公園地下駐車場
- ・ ポートサイド地下駐車場
- ・ 馬車道地下駐車場
- ・ 山下町地下駐車場
- ・ 日本大通り地下駐車場
- ・ 伊勢佐木長者町地下駐車場

施設維持費 : 2億1,218万円 (2億2,984万円)
公債費等 : 1億3,862万円 (2億4,485万円)

(3) 道路修繕 98億9,007万円 <108億9,007万円> (107億8,230万円)

舗装のひび割れやわだち掘れ等、損傷が著しくなっている道路の計画的な修繕や緊急を要する舗装補修を進めます。

年度末における道路の損傷や、災害等に対応するとともに、働き方改革で求められている発注・施工時期の平準化を進めるため、道路修繕工事等について債務負担行為を設定します。



舗装修繕工事の状況(泉区)

コラム⑫ 建設業の働き方改革への対応

◆公共工事の平準化

令和6年4月から建設業にも「時間外労働の上限規制」が導入されるため、発注者の責務として、「平準化」等の取組促進が求められています。

公共工事については、年度初めの4、5月に工事量が少なく、年度の後半にかけて工事量が多くなる傾向にあり、特に、繁忙期である1～3月に仕事量が増大し、受注者の長時間労働などにつながっています。

このため、年度末の繁忙期を解消し、官民あげた業務改善にもつながる「施工時期の平準化」に取り組んでいます(図1)。

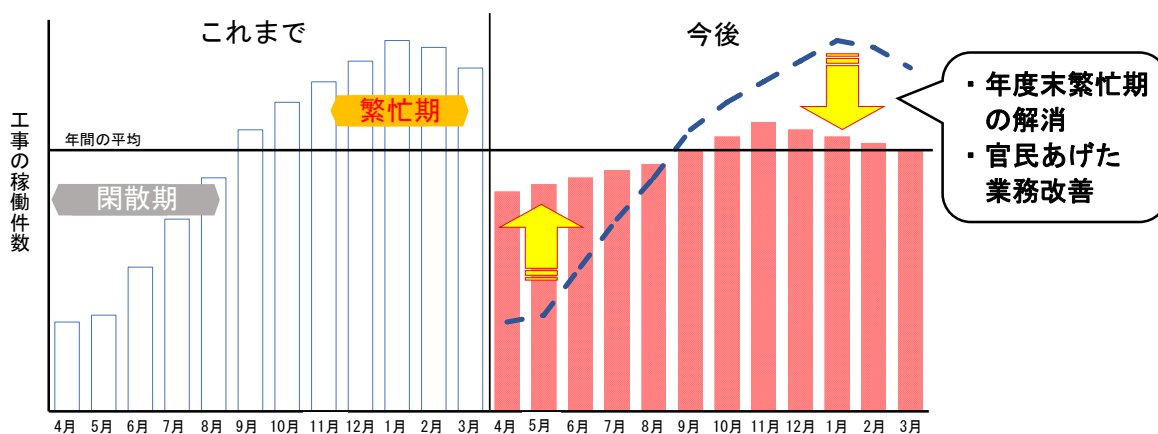


図1 公共工事の稼働件数の年度内推移(イメージ)

◆平準化債務の導入

これまででも早期執行や、ゼロ市工事で発注などで平準化に取り組んできましたが、5年度からは、更なる取組として「工期1年未満の工事」に関しても施工時期の平準化を目的とした債務負担行為が設定できる、いわゆる「平準化債務」を新たに導入します。

これにより、現場着手も前倒して年度をまたぐことが可能となるため工事の平準化を大きく進めることが可能となります(図2)。

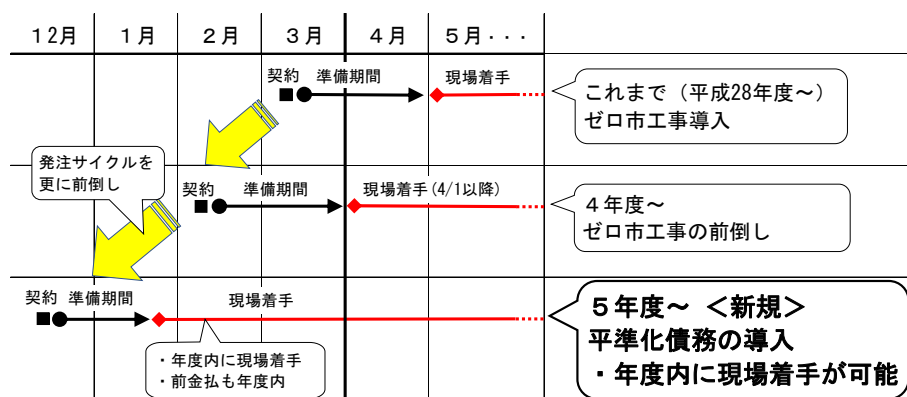


図2 ゼロ市工事で平準化債務の比較

※道路局の債務負担行為については、47ページをご覧ください。

(4) 街路樹・植樹帯の管理 17億5,710万円 (17億5,710万円)

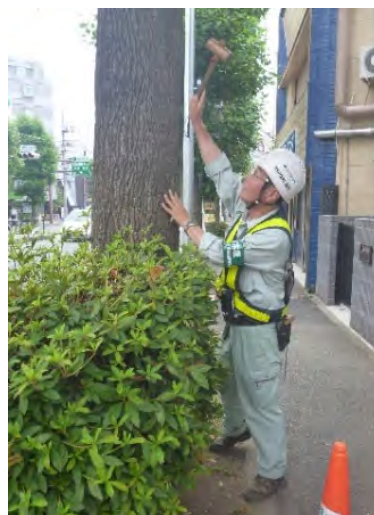
樹木の大径化、老朽化に対応した街路樹の管理を進めます。

ア 剪定・刈込等 15億7,621万円 (15億3,970万円)

街路樹及び植樹帯の植栽について、剪定や刈込等を進めます。

イ 倒木対策 1億2,088万円 (4,664万円)

これまでのキノコが寄生しやすい8種の街路樹に加えて、令和5年度からは緊急輸送路第一次路線上の街路樹も樹木医による点検を行います。

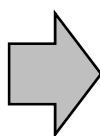


樹木医による点検実施状況

ウ 街路樹の更新等 6,000万円 (1億7,075万円)

安全な通行に支障がある街路樹について、管理しやすい樹種への変更や密な間隔で植栽されていた樹木の適切な間隔での再配置などを進めます。

- ・大岡川プロムナード(南区、中区) ・環状4号(緑区)
- ・すみれが丘(都筑区) ・石崎川プロムナード(西区) ほか1箇所



植え替えの例:大岡川プロムナード(南区)
サクラの品種をソメイヨシノからジンダイアケボノに変更

コラム⑬ 街路樹による良好な景観の創出・育成

道路局予算に加えて、環境創造局のみどり保全創造事業費会計予算(街路樹による良好な 景観の創出・育成:5億8,200万円)を活用し、駅周辺や各区の主要な路線など、多くの市民の目にふれ、街並みの美観向上に寄与する街路樹に対し、細やかな剪定等を行っています。

街路樹剪定士指導の下、管理目標図に基づいた剪定を行うことで、適切な生育と樹形を美しく保つことができるとともに、経年管理記録を作成し、維持管理状況を引き継ぐなど、質の高い管理を行っています。



剪定により良好に管理された並木 【参考】強剪定された並木(過去)

(5) 道路施設の管理 35億3,286万円 (33億2,912万円)

車道等の清掃及び道路照明灯やエレベーター等の保守・管理を行うとともに、道路施設の効率的な維持管理のために地理情報システム（道路土木GIS）を活用しています。

ア 道路等の清掃 9億450万円 (9億円)

道路を常に良好な状態に保つため、幹線道路、駅前広場等の施設について、清掃を実施します。

・ 幹線道路 616km ・ 駅前広場 36駅



車道の清掃

イ 道路照明灯の管理 3億8,450万円 (3億7,148万円)

道路照明施設の点検や補修を行うとともに、令和6年度完了に向けて道路照明灯のLED化を進めています。

・ 62,540灯

ウ 路面下空洞調査 3,000万円 (2,000万円)

道路陥没など突発的な道路の事故や被害を事前に防止するため、空洞探査車等を用いた路面下の空洞調査を実施します。令和4年度までに市内の緊急輸送路、接続道路、幹線道路の調査が一巡しており、5年度から2巡目の調査を実施します。

・ 緊急輸送路及び幹線道路 計約130km



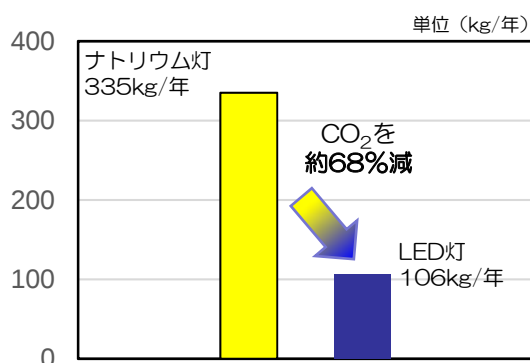
空洞探査車による調査

エ その他 22億1,386万円 (20億3,764万円)

- ・ エレベーター（104基）、動く歩道などエスカレーター（59基）の維持管理
- ・ みなとみらい、港北ニュータウン共同溝の維持管理
- ・ 道路照明灯、エレベーターなどの電気料金
- ・ 道路台帳の管理、更新、境界標の保全、認定路線の管理
- ・ 地理情報システム（道路土木GIS）を活用した道路施設の効率的な維持管理
- ・ 工事や維持管理に必要な品質確保のための技術基準の作成 など

コラム⑭ 道路照明灯のLED化により、脱炭素化を推進します

道路照明LED化はCO₂削減効果も大



- ・ 平成30年度から令和4年度までに、道路照明灯62,540灯のうち、約49,000灯（約8割）のLED化を実施済みです。
- ・ 今後、令和6年度までに残りの道路照明灯のLED化を進めます。
- ・ LED化によるCO₂削減は、年間9,400 tになる見込みです。

道路照明のLED化によるCO₂削減効果
(1灯あたりの年間排出CO₂量)

(6) 河川水路等施設の管理【一部再掲】 13億586万円 (12億9,895万円)

ア 河道浚渫等による治水安全度の確保 4億3,100万円 (4億2,900万円)

河道等安全確保緊急対策事業等により、河川・雨水調整池等の堆積土砂の掘削や除草、樹木伐採等を実施し、治水安全度を確保します。

- ・堆積土砂の掘削
- ・樹木伐採、除草

イ 河川水路の維持管理 8億7,486万円 (8億6,995万円)

本市管理の一級・二級・準用河川及び水路、雨水調整池などの維持管理を行います。また、システム等を活用し、占用物件・用地の管理を適正かつ効率的に行います。

- ・河川・水路等維持管理事業の業務効率化 (新規 詳細はコラム⑰を参照)
- ・堆積土砂量計測・分析システムの開発 (新規 詳細はコラム⑰を参照)
- ・護岸、管理用通路、転落防止柵等の補修
- ・ポンプ設備等の点検、補修、部品交換
- ・河川、水路の占用許可、河川・水路占用システム保守・管理
- ・河川、水路の現況調査、河川水路データベースシステム保守・管理
- ・水質事故処理、沈船撤去 など

コラム⑮ 河道等安全確保緊急対策事業による対策強化！

～河川・水路・雨水調整池等の治水安全度の確保～

河川や水路、雨水調整池の土砂や草木は、日常的な点検の支障になるだけでなく、大雨時に水の流れを妨げるなどして、氾濫を引き起こす原因にもなります。また、土砂の堆積により水の流れが偏ることで、護岸崩落につながる洗堀が発生することも懸念されます。

河道等安全確保緊急対策事業等により、河川や水路、雨水調整池などの土砂掘削や樹木伐採、除草等の対策を強化することで、雨水を流す機能や貯める機能を確保していきます。

実施事例



令和7年度までに要対策河道延長約14kmの完了を目指します。



コラム⑩ デジタル化を推進中（part 1）～道路編～

市民サービスの向上のため、デジタル化の取組を進めています。

●道路台帳図証明のオンライン受付がスタート！

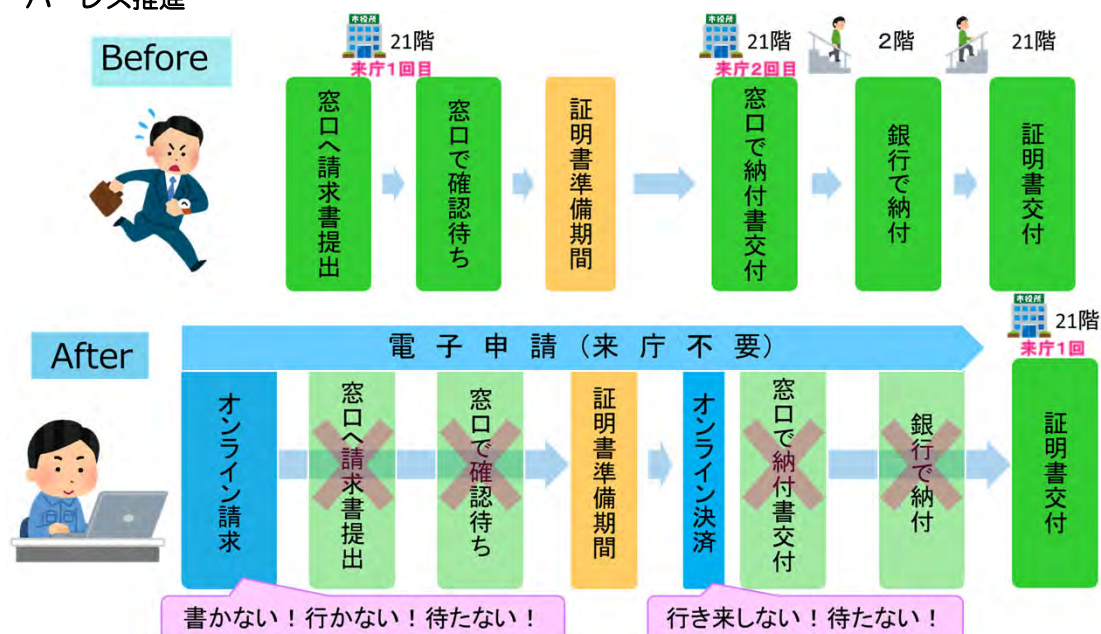
道路台帳図証明の交付請求について、「横浜市電子申請・届出システム」によるオンライン受付を、1月4日から開始しました。

【請求件数年間平均実績】約2,000件

年間を通して多くの証明請求を窓口で受付けている手続きが、オンライン決済を含めて、全てシステムで受付できるのは本市初！

【オンライン受付のメリット】

- ・24時間、365日、どこでも手続き可能
- ・手数料の納付もオンライン決済
- ・ペーパーレス推進



●道路損傷通報システム

令和3年5月から、スマートフォンを利用して、横浜市LINE公式アカウントから、道路の穴ぼこなどの損傷状況を通報することができる「道路損傷通報システム」を運用しています。

通報にあたって氏名や連絡先等の個人情報伝える必要がなく、職員とのやりとりもなしに簡易な操作で済ませることができることが特徴です。

今後さらに、土木事務所の陳情管理システムと連携し、通報入力の自動化や集計のシステム化を図ることとで、さらなる改善を進めていく予定です。

令和4年（1月～12月）の通報件数：1,607件

【操作方法】

横浜市LINE公式
アカウントはこちら→



「基本メニュー」から
「道路の損傷通報」をタップ。



案内に従って、損傷種別や写真、
位置情報などを選択・入力します。

コラム⑰ デジタル化を推進中（part2）～河川編～

●河川・水路等維持管理のデジタル化！

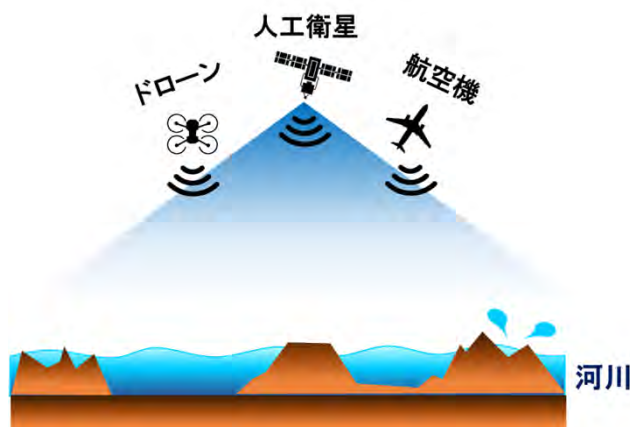
保守点検のデータベースを構築し、点検データの登録から補修履歴の管理まで、デジタルマップを含めて一元的に管理できるようにします。また、現場に携行できるタブレット端末等により、現場での入力やデータベースの読み込みも可能とします。これにより、保守点検業務の効率化・省力化を進めます。

【イメージ図】



●河川の堆積土砂量の計測 ～民間のセンシング技術を公募～

デジタル・デザイン室が運営する、デジタルを活用した創発・共創のプラットフォーム「YOKOHAMA Hack!」を活用し、民間提案による河川の堆積土砂量を計測する技術を募集しました（令和5年1月募集）。応募企業から実証実験を行う企業を選考し、実地で検証を行います（有効性や効率性を確認できれば、実際のシステム開発を目指します。）。



＜提案を求める技術＞

- ① “上空から”のセンシングによる概要把握
- ② “近傍から”のセンシングによる定量把握
- ③ センシング状況の集約・管理・分析等を行うシステム構築



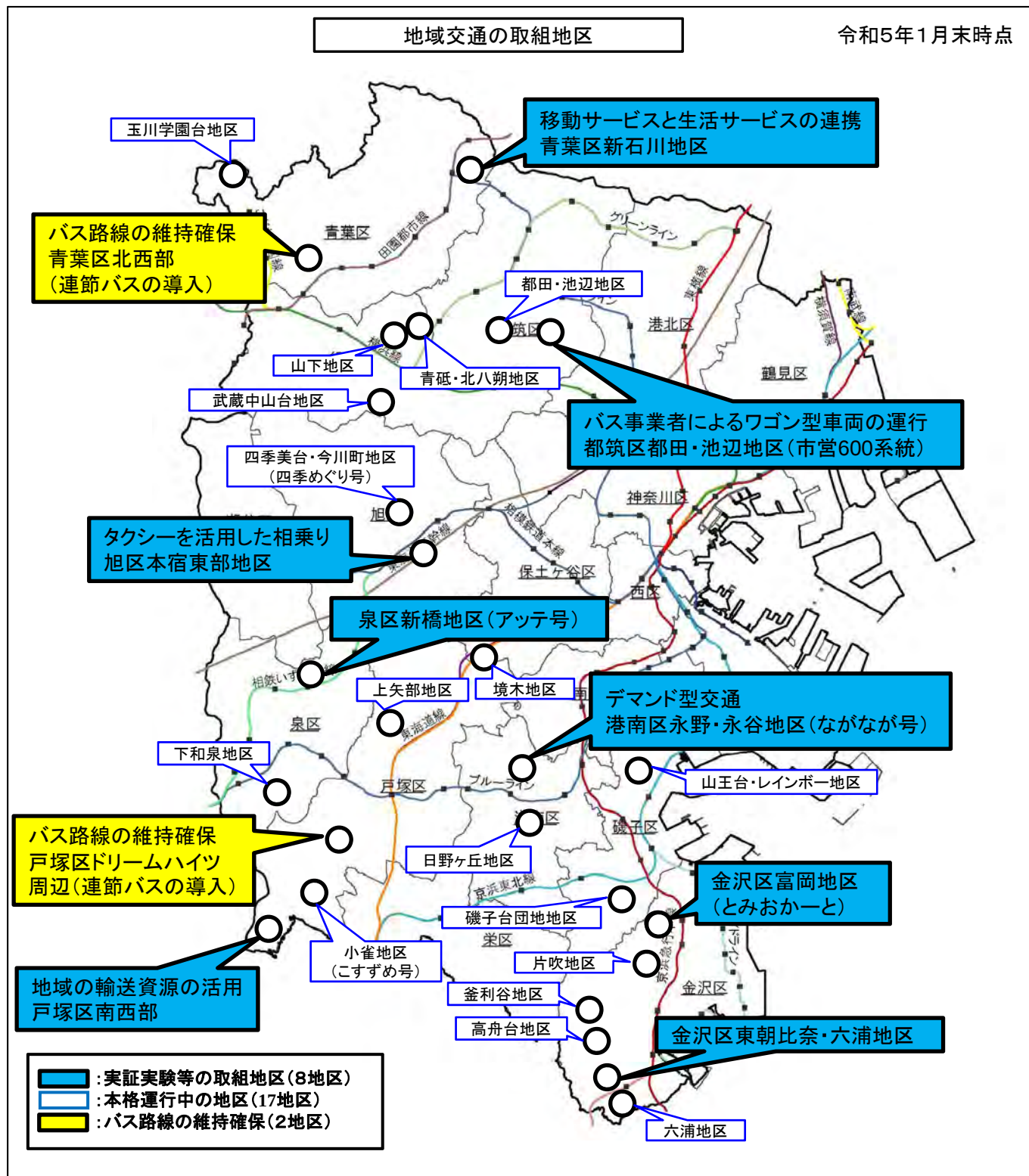
令和5年度実証実験

Ⅲ 魅力あるまち・みちづくり

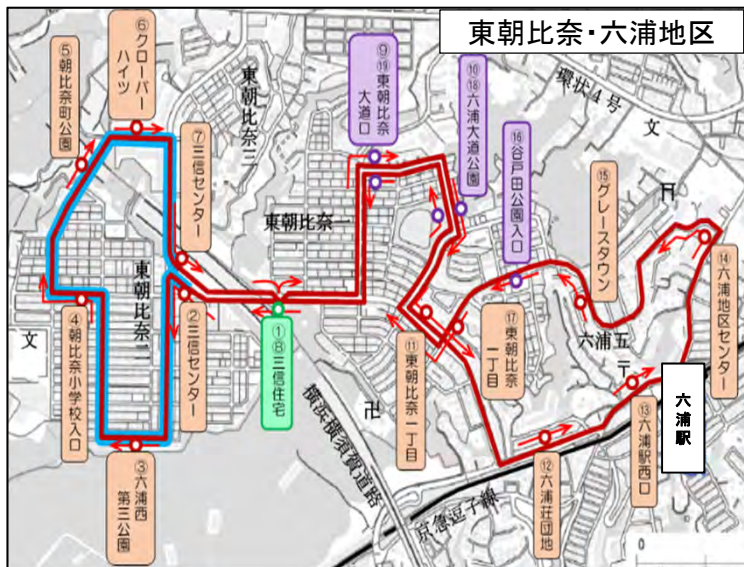
～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

1 地域交通の確保

地域からの登録を受け、それぞれの地域にふさわしい持続可能な地域交通の実現を目指す「地域交通サポート事業」の取組等を拡充し、地域交通の充実を図ります。また、コロナ禍等で厳しい状況にあるバス路線について、市民の足を守るため、連節バスなど様々な工夫によって、路線の維持確保を図ります。



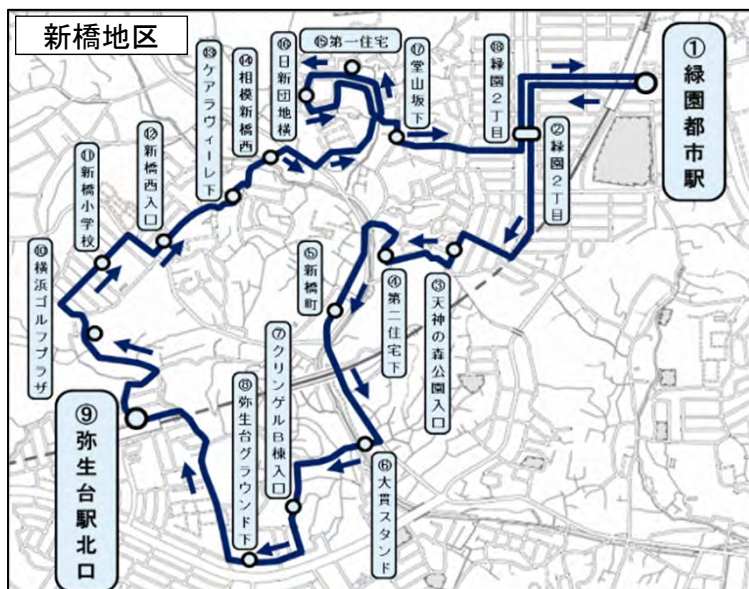
③バス事業者による郊外部の交通利便性の確保（金沢区 東朝比奈・六浦地区）



- ・バス事業者による小型バス（乗車定員約35名）の運行
- ・実証運行において一部区間で割引運賃（大人100円）を設定（三信センター停留所で金沢八景駅方面バスに乗継可能）



④タクシー事業者による郊外部の交通利便性の確保（泉区 新橋地区）



- ・タクシー事業者によるワゴン型車両（乗車定員9名）の運行
- ・需要を効率良く取り込むため、緑園都市から弥生台を経由する一方向循環



⑤地域の輸送資源の活用（戸塚区南西部）



地域の輸送資源（商業施設、福祉施設等）の活用イメージ



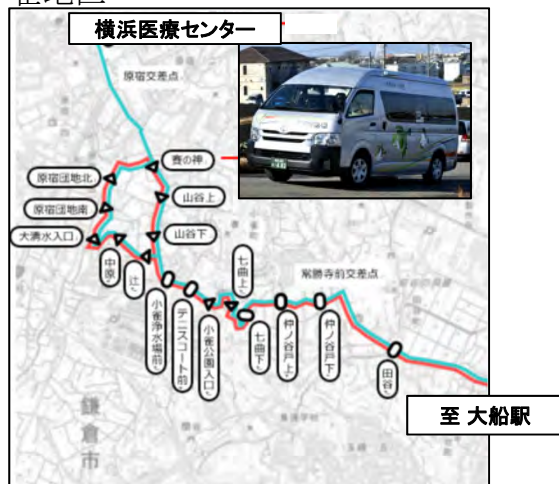
ボランティアによる運行イメージ

- ・商業施設や福祉施設等の送迎車両の活用
- ・交通事業者によらない運行（白ナンバー）の実現性や支援制度の検討

イ 地域交通に対する支援継続

既に本格運行している地域交通についても、持続可能な運行継続のための様々な支援（保険料の補助など）を継続します。（戸塚区小雀地区、旭区四季美台・今川町地区、緑区山下地区、都筑区都田・池辺地区）

戸塚区小雀地区



【令和4年度の取組】
・横浜医療センターへのアクセスルートの見直しに伴う運行補助

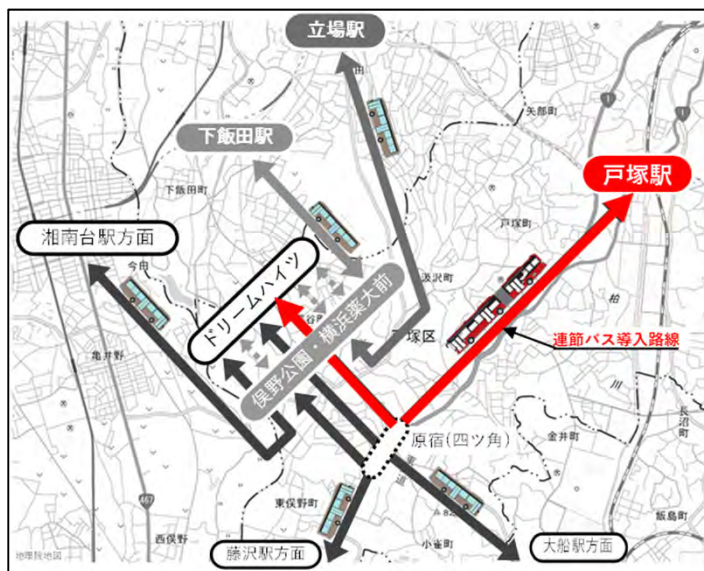
旭区四季美台・今川町地区



【令和4年度の取組】
・運行ダイヤ（午前の1便増）の見直しに伴う運行補助

(2) バス路線の維持確保 1億1,892万円（2,547万円）

コロナ禍で厳しい状況にあるバス路線について、連節バス導入により、路線の維持確保を図ります。（戸塚区・青葉区）



取組を実施する路線のイメージ(戸塚区)

- ・連節バス導入により輸送力を確保しつつ、バス事業者の経営資源を生み出す
- ・経営資源を再配分し、周辺路線を維持確保
- ・俣野公園・横浜薬大前での乗継ぎを対象に初乗り運賃相当額の運賃の割引を検討



連節バス(車両)導入イメージ(戸塚区)

(3) 生活交通バス路線の維持支援 2億8,260万円（3億1,056万円）

市民の日常生活の利便性を確保するため、生活交通として必要な13路線に対し補助金を交付し、バス路線を維持します。

2 自転車施策の推進

自転車施策の推進【一部再掲】 23億9,558万円（23億7,274万円）

「横浜市自転車活用推進計画」の4つのテーマである「まもる」「はしる」「とめる」「いかす」に基づき、自転車利用のルールやマナーの周知、自転車通行空間の整備、駐輪環境の向上及び放置防止対策、自転車の活用に向けた取組などの施策を総合的に進めます。

（1）横浜市広域シェアサイクル事業社会実験 850万円（500万円）

令和4年6月にOpenStreet株式会社（他連携事業者4社）及び株式会社ドコモ・バイクシェアと協定を締結し、社会実験を開始しました。5年度は引き続きシェアサイクルポートの拡充に努め、利便性の向上を図るとともに、積極的に広報を進めていきます。



【社会実験で新たに設置したシェアサイクルポート】（4年11月30日時点）
ポート数：97箇所、ラック数：853台

（2）自転車通行空間の整備 1億600万円（6,900万円）

戸塚駅周辺、都心臨海部、金沢文庫駅周辺、市道中山北山田線など7路線の整備を進めます。また、環状4号線について自転車通行空間整備に向けた設計を進めます。



自転車ネットワーク計画図

（3）市営自転車駐車場の管理運営等 18億8,474万円（18億6,262万円）

鉄道駅周辺の市営自転車駐車場（240箇所）の管理運営、整備・補修を行うとともに、引き続き効率的な管理運営に向けて検討を進めます。また、自転車駐車場の再整備にあたっては、民間活力の積極的な導入に取り組みます。

（4）自転車等放置防止対策 3億8,314万円（4億2,211万円）

市内117駅周辺で、放置自転車等の移動や啓発活動等を実施します。

（5）自転車の交通ルール等の周知・啓発 1,319万円（1,401万円）

自転車交通安全教室を実施するとともに、自転車保険加入など自転車の交通ルールの周知・啓発を行います。また、5年4月に施行されるヘルメット着用努力義務化については広報・啓発を強化して取り組みます。



乳幼児保護者向け啓発チラシ

3 駅周辺の移動環境の確保

(1) 歩行空間の改善・拡充（バリアフリーの推進） 1億6,563万円（2億8,372万円）

バリアフリー法に基づき、主要な駅周辺を対象に、駅や区役所等の高齢者、障害者等がよく利用する施設及び施設間を結ぶ経路のバリアフリー化を重点的かつ一体的に推進するため、バリアフリー基本構想を策定します。

【令和5年度策定】

- ・緑区（中山駅、長津田駅、鴨居駅）
- ・港北区（新横浜駅、小机駅、大倉山駅）

また、基本構想を策定した地区から、歩道の段差改善等バリアフリー歩行空間の整備に向けた計画の策定及び整備を進めます。十日市場駅周辺や都筑区タウンセンター周辺において舗装の改修を行うとともに、三ツ境駅北口についてエレベーター設置に向けて設計を進めます。

- ・十日市場駅周辺地区、都筑区タウンセンター周辺地区、三ツ境駅周辺地区、根岸駅・磯子駅・屏風浦駅・杉田駅・新杉田駅周辺地区（新規）など11地区

(2) 駅周辺の魅力と利便性の向上【一部再掲】 9,250万円（2億4,039万円）

戸塚駅周辺の混雑緩和のため、東口では駅前広場や周辺地区の交通の運用形態及びレイアウトを検討し、西口では市道矢部第281号線の整備（第2バスセンターの拡張整備）を行います。

また、関内・関外地区の回遊性向上のため、みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路の再整備を進めます。

コラム⑱ 十日市場歩道橋にエレベーターが完成しました

十日市場駅周辺地区では、バリアフリー基本構想に基づき、バリアフリー歩行空間の整備を進めており、令和4年11月に山下長津田線に架かる十日市場歩道橋にエレベーターが完成しました。



案内図



エレベーター（13人乗り）

4 まちの魅力創出

(1) 健康みちづくり推進事業 5,571万円 (7,616万円)

「健康みちづくり推進事業実施計画」に位置づけたルートにおいて、楽しみながら健康づくりに取り組める場を創出するため、案内板・距離標・ベンチの設置、舗装の新設・改修など、歩行空間の整備を進めます。

・旭区、戸塚区、栄区など7区、7ルート



大岡川プロムナードの舗装改修



岩川沿いルートの舗装新設

(2) 市民参加による河川環境の創出 600万円 (633万円)

川づくりを行いたい市民の方々に、川づくりの資材支援および専門家を派遣する「川づくりコーディネーター制度」により、市民協働による河川環境整備を進めます。

コラム⑱ 皆様の寄附（ふるさと納税）を活用して事業を進めていきます

お気に入りの場所にハマサポベンチ
を設置したい！
（健康みちづくり推進事業）

皆様からのメッセージを書いたプレート付きのベンチ（ハマサポベンチ）をルート上に設置します。



ハマサポベンチ
（中区：横浜の遺産から現代へ
タイムスリップルート）

アユ・ホタルが棲める水辺を守りたい！
（自然豊かな川づくりの推進）

旭区の中堀川と金沢区の宮川で、ふるさと納税を活用しながら、市民協働による生物多様性に配慮した川づくり活動を行っています。



川づくり活動（河床に石を組んで作った生き物の棲み家）
（宮川：金沢区釜利谷南）

(3) 市民協働による美化活動の推進 1,963万円 (1,970万円)

ア ハマロード・サポーター 981万円 (993万円)

自治会・町内会、企業等の団体による市道の清掃、美化活動を支援します。

- ・支援団体 567団体
- ・支援内容 清掃用具、ごみ袋の支給等
- ・全体交流会 永年活動表彰、国土交通大臣表彰等

令和4年度 国土交通大臣表彰受賞団体



天王町商店街協同組合(保土ヶ谷区)



センター南ハマロード・サポーター(都筑区)



クリーン四ツ谷(泉区)

イ 水辺愛護会活動支援事業 982万円 (977万円)

地域や有志の方々により構成された団体による河川や水辺施設の美化活動を支援します。

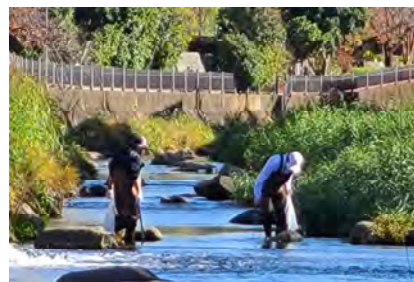
- ・支援団体 96団体
- ・支援内容 水辺環境の美化活動に対する補助金の交付等
- ・全体交流会 永年活動表彰、国土交通大臣表彰等



令和4年度「みどりの愛護」功労者
国土交通大臣表彰受賞団体
和泉川源流を楽しむ会(瀬谷区)



令和4年(公社)日本河川協会
河川功労者表彰受賞団体
ニツ橋水辺愛護会(瀬谷区)



資源循環局と連携した河川ごみ
調査実施時の写真
いたち川(天神橋～新橋)水辺愛護会(栄区)

コラム② 「水辺愛護会、ハマロード・サポーター全体交流会」について

水辺愛護会及びハマロード・サポーターの交流の場として「水辺愛護会、ハマロード・サポーター全体交流会」を令和元年度から開催しています。全区の団体が一堂に会して、活動内容を共有するための事例発表や、永きにわたり活動いただいている団体等への表彰状授与、記念撮影を実施しています。4年度の表彰団体数は、49団体でした(令和4年12月開催)。



市長からの表彰状授与



事例発表



記念撮影

5 財源確保の取組

(1) 高架下等有効活用事業

道路高架下・道路予定区域等の未利用地を駐車場などとして有効活用し、その収入を事業用地等の維持管理財源に充当します。

- ・歳入充当額 7,978万円
- ・活用箇所数 32箇所



【高架下等有効活用事業】南区二葉一丁目

(2) 広告事業

道路施設・道路空間を広告事業によって有効活用し、その収入をエレベーター等の維持管理財源に充当します。

- ・歳入充当額 3,203万円
- ・JR桜木町駅前広場イベントスペースの運営
- ・みなとみらい21地区における広告フラッグ掲出
- ・駅自由通路などの道路施設における広告掲出



【広告事業】馬車道駅地下道

(3) 道路施設におけるネーミングライツ事業

道路施設に愛称を命名することができる権利を売却し、その収入を道路等の維持管理財源に充当します。

- ・歳入充当額 410万円
- ・活用箇所数 7箇所



【ネーミングライツ事業】
シルバーリボンデッキ(桜木町駅前歩道橋)

(4) 道路事業予定地の利活用

事業に先行して取得した道路事業予定地について、工事着手までの間の利活用を図ることで、その収入を事業用地等の維持管理財源に充当します。

- ・歳入充当額 5,062万円
- ・活用箇所数 17箇所



【道路事業予定地の利活用】緑区青砥町

令和5年度 道路局予算案

〔 令和5年度予算は令和4年度2月補正の一部を含みます。
また、令和4年度予算は令和3年度2月補正の一部を含みます 〕

(単位:千円)

	令和5年度	令和4年度	増▲減額	増▲減率
一般会計	75,850,075	82,733,939	▲ 6,883,864	▲ 8.3%
12款 道路費	74,951,612	81,689,268	▲ 6,737,656	▲ 8.2%
1項 道路維持管理費	25,901,073	25,105,814	795,259	3.2%
1目 道路行政総務費	6,984,874	6,904,899	79,975	1.2%
2目 道路等管理費	3,201,302	3,005,354	195,948	6.5%
3目 道路等維持費	13,415,523	13,023,080	392,443	3.0%
4目 交通安全・自転車政策推進事業費	2,299,374	2,172,481	126,893	5.8%
2項 道路整備費	44,375,760	51,625,978	▲ 7,250,218	▲ 14.0%
1目 交通安全施設等整備費	572,979	584,335	▲ 11,356	▲ 1.9%
2目 地域交通対策費	244,593	207,503	37,090	17.9%
3目 道路特別整備費	16,138,175	16,749,320	▲ 611,145	▲ 3.6%
4目 街路整備費	22,696,890	27,541,314	▲ 4,844,424	▲ 17.6%
5目 高速道路等整備費	92,461	187,174	▲ 94,713	▲ 50.6%
6目 道路費負担金	4,630,662	6,356,332	▲ 1,725,670	▲ 27.1%
3項 河川費	4,674,779	4,957,476	▲ 282,697	▲ 5.7%
1目 河川管理費	1,070,203	1,394,900	▲ 324,697	▲ 23.3%
2目 河川整備費	3,604,576	3,562,576	42,000	1.2%
17款 諸支出金	898,463	1,044,671	▲ 146,208	▲ 14.0%
1項 特別会計繰出金	898,463	1,044,671	▲ 146,208	▲ 14.0%
11目 自動車駐車場事業費会計繰出金	236,959	326,189	▲ 89,230	▲ 27.4%
13目 公共事業用地費会計繰出金	529,137	562,756	▲ 33,619	▲ 6.0%
18目 自動車事業会計繰出金	132,367	155,726	▲ 23,359	▲ 15.0%

(単位:千円)

	令和5年度	令和4年度	増▲減額	増▲減率
特別会計 自動車駐車場事業費会計	350,799	474,698	▲ 123,899	▲ 26.1%
1款 自動車駐車場事業費	350,799	474,698	▲ 123,899	▲ 26.1%
1項 運営費	212,175	229,844	▲ 17,669	▲ 7.7%
1目 自動車駐車場運営費	212,175	229,844	▲ 17,669	▲ 7.7%
2項 公債費	133,624	239,854	▲ 106,230	▲ 44.3%
1目 元金	131,844	235,382	▲ 103,538	▲ 44.0%
2目 利子	1,762	4,427	▲ 2,665	▲ 60.2%
3目 公債諸費	18	45	▲ 27	▲ 60.0%
3項 予備費	5,000	5,000	0	0.0%
1目 予備費	5,000	5,000	0	0.0%

1	(12款 1 項 1 目) 道路行政総務費		道路行政全般にかかる諸経費の支出を行います。
	本年度	千円 6,984,874	<u>1 職員人件費</u> 6,678,611千円 (6,592,035) ・一般職 763人、再任用職員 60人
	前年度	6,904,899	<u>2 技術監理費</u> 33,673千円 (23,801) ・労務・資材費調査委託費及び技術研修等にかかる経費
	差引	79,975	<u>3 総務管理費</u> 8,130千円 (10,741) ・事務費、各種講習等受講費用等
本年度の財源	国・県支出金	0	<u>4 道路水路等境界調査費</u> 83,786千円 (95,119) ・道路及び水路等と民有地との境界を確定する経費
	使用料	178,763	<u>5 道路台帳整備費</u> 180,674千円 (183,203) ・道路台帳整備のための測量・調査費等
	諸収入等	1,296	
	市債	0	
	一般財源	6,804,815	

2	(12款 1 項 2 目) 道路等管理費		歩行者と車両の安全な交通を確保するため、道路の適切な管理を行います。
	本年度	千円 3,201,302	<u>1 道路管理事業費</u> 248,426千円 (219,604) ・道路占用・掘削許可、貸付地管理、道路原因者事故の賠償等
	前年度	3,005,354	<u>2 道路管理システム運用事業費</u> 102,061千円 (102,061) ・道路管理システムの運用
	差引	195,948	<u>3 ハマロード・サポーター事業費</u> 9,812千円 (9,930) ・ハマロード・サポーターの活動支援
本年度の財源	国・県支出金	6,580	<u>4 道路清掃費</u> 904,500千円 (900,000) ・道路、駅前広場等の清掃
	使用料	1,906,614	<u>5 道路照明費</u> 1,133,086千円 (1,064,669) ・道路照明灯の維持管理
	諸収入等	323,908	<u>6 エレベーター等管理費</u> 567,150千円 (508,813) ・エレベーター・エスカレーター等の維持管理
	市債	100,000	<u>7 共同溝管理費</u> 192,103千円 (150,728) ・みなとみらい 2 1 及び港北ニュータウン共同溝の維持管理
	一般財源	864,200	<u>8 自由通路管理費</u> 41,010千円 (46,010) ・大船駅北口の自由通路の維持管理
			<u>9 高架下等有効活用事業費</u> 3,154千円 (3,539) ・検討会運営費等

3	(12款1項3目) 道路等維持費		
	本年度	千円 12,415,523 <13,415,523>	
	前年度	千円 13,023,080 <13,023,080>	
	差引	▲ 607,557 <392,443>	
本年度の財源	国・県支出金	10,000 <10,000>	
	使用料	5,069,040 <5,069,040>	
	諸収入等	93,492 <93,492>	
	市債	1,597,000 <1,597,000>	
	一般財源	5,645,991 <6,645,991>	
・<>は2月補正の一部を含む ・前年度予算の内訳は2月補正の一部を含む			
			道路の安全を維持するために道路の修繕を行うほか、街路樹の維持管理を行います。 1 道路修繕費 9,890,073千円 <10,890,073千円> (10,782,299) ・計画的な道路修繕 ・緊急を要する道路修繕 2 私道対策事業費 50,000千円 (50,000) ・私道整備助成、私道整備 3 街路樹管理事業費 1,757,096千円 (1,757,096) ・街路樹及び植樹帯の維持管理 ・街路樹点検 ・街路樹保全のための改良工事 4 公道移管助成費 36,000千円 (36,000) ・公道移管測量費助成金 ・公団混雑地域内測量費助成金 5 認定路線管理費 13,240千円 (11,571) ・議案参考図作成委託費等 6 交通安全施設補修費 539,114千円 (386,114) ・防護柵、区画線、あんしんカラーベルト、誘導用ブロック、道路照明灯等の交通安全施設の維持・補修 7 子どもの通学路交通安全対策補修費 130,000千円 (0) ・重点地区における防護柵、区画線、誘導用ブロック等の交通安全施設の維持・補修

4	(12款1項4目) 交通安全・自転車政策推進事業費		
	本年度	千円 2,299,374	
	前年度	2,172,481	
	差引	126,893	
本年度の財源	国・県支出金	0	
	使用料	2,239,805	
	諸収入等	4,985	
	市債	0	
	一般財源	54,584	
			「横浜市自転車活用推進計画」に基づき、自転車利用のルール・マナーの周知、駐輪環境の向上及び放置防止対策、自転車の活用に向けた取組などの自転車施策を総合的に進めます。また、各季の交通安全運動等や交通安全教育を行います。 1 放置自転車等移動・保管事業費 320,262千円 (353,147) ・駅周辺の放置禁止区域に放置された自転車の移動等 ・横浜市内鉄道駅周辺放置実態調査 2 有料自転車駐車場運営事業費 1,846,178千円 (1,688,140) ・市内240箇所、約10万台の有料自転車駐車場の運営 ・建物式有料自転車駐車場の補修等 ※「有料自転車駐車場運営事業費」の一部は、本年度より12款2項1目から移動 3 自転車活用推進計画事業費 86,335千円 (85,953) ・自転車活用推進計画に掲げた施策の推進 ・各区における自転車マナーアップ監視員による啓発 ・自転車利用のルール・マナーの周知、啓発及び教育 ・広域シェアサイクル事業の展開に向けた社会実験の実施等 4 民営施設整備助成費 10,000千円 (10,000) ・民営自転車駐車場整備に対する補助 5 交通安全推進事業費 36,599千円 (35,241) ・交通安全の周知、啓発及び教育

5	(12款2項1目) 交通安全施設等整備費		歩行者の安全と円滑な道路交通を確保するため、交通安全施設や安全で快適に移動できる歩行空間を整備します。 1 交通安全施設等整備費 377,835千円 (417,835) ・歩道、防護柵、案内標識、道路照明灯等の施設の整備 2 自転車駐車場等整備費 26,800千円 (166,500) ・市営自転車駐車場の整備等 ※「自転車駐車場等整備費」の一部は、本年度より12款1項4目へ移動 3 子どもの通学路交通安全対策整備費 168,344千円 (0) ・重点地区における歩道、防護柵、ハンプ等の施設の整備
	本年度	千円 572,979	
	前年度	584,335	
	差引	▲ 11,356	
本年度の財源	国・県支出金	0	
	使用料	21,511	
	諸収入等	198,267	
	市債	150,000	
	一般財源	203,201	

6	(12款2項2目) 地域交通対策費		持続可能な地域交通の実現を図るため、きめ細やかな地域内の移動手段の確保や、市民生活を支えるバスネットワークの維持に向けた取組を進めます。 1 地域交通の充実 87,190千円 (50,000) ・新たな移動手段確保に向けた取組 ・地域交通に対する支援継続 2 横浜市生活交通バス路線維持支援事業等 150,233千円 (154,833) ・生活交通バス路線の運行に関する補助金等 ・バス活性化対策事業 3 区の提案に基づき連携して実施する事業 7,170千円 (2,670) ・地域の輸送資源の活用 (戸塚区) ・公共交通の環境整備検討 (南区)
	本年度	千円 244,593	
	前年度	207,503	
	差引	37,090	
本年度の財源	国・県支出金	0	
	使用料	0	
	諸収入等	100	
	市債	0	
	一般財源	244,493	

7 (12款2項3目) 道路特別整備費	
本年度	千円 15,883,146 〈16,138,175〉
前年度	15,578,820 〈16,749,320〉
差引	304,326 〈▲611,145〉
本年度の財源	国・県支出金 7,077,624 〈7,217,889〉
	使用料 0
	諸収入等 586,718 〈586,718〉
	市債 5,975,000 〈6,087,000〉
	一般財源 2,243,804 〈2,246,568〉

- ・〈〉は2月補正の一部を含む
- ・前年度予算の内訳は2月補正の一部を含む

幹線道路や歩道、電線共同溝の整備、踏切安全対策やバリアフリーの推進、橋梁の地震対策及び点検や老朽化対策などを実施します。

1 幹線道路の整備

(1) 都市計画道路の整備

- 3,471,400千円 (4,104,452)
- ・上郷公田線 (公田地区：栄区) など
- (2) 国道の整備 643,737千円 (527,118)
- ・国道1号 (不動坂交差点：戸塚区) など

2 地域の道路整備と交通施策

- (1) 道路改良の推進 1,309,499千円 (1,865,500)
- ・市道三ツ沢第398号線 (保土ヶ谷区) など
- (2) 踏切安全対策の推進 441,600千円 (228,000)
- ・樹源寺踏切 (保土ヶ谷区) など
- (3) あんしんカラーベルトの整備
- ・通学路等における路側帯のカラー化 6,000千円 (23,200)
- (4) バリアフリーの推進 155,630千円 (258,715)
- ・十日市場駅周辺地区 (緑区) など
- ・基本構想作成業務委託費など
- (5) 戸塚駅周辺の交通混雑緩和 23,604千円 (25,000)
- (6) 健康みちづくりの推進 55,706千円 (76,156)
- ・ルート整備 (旭区、栄区) など
- (7) 無電柱化の推進
- 947,304千円 〈1,130,304千円〉 (1,468,304)
- ・環状2号線 (鶴見区) など
- (8) 自転車交通施策 106,000千円 (69,000)
- ・自転車利用環境の向上に向けた検討業務 など
- (9) 米軍施設返還跡地関連道路の検討 20,000千円 (20,000)
- (10) 鶴見川中下流域の橋梁新設
- 1,230,500千円 (715,000)

3 道路等の維持・管理

- (1) 道路がけ防災対策の推進 124,800千円 (124,800)
- ・道路がけの点検・防災工事
- (2) 交通安全施設の補修 234,400千円 (234,456)
- ・案内標識、エレベーター・エスカレーター、道路照明柱等の施設の補修・点検
- (3) 歩道橋の維持・管理
- 808,551千円 〈880,580千円〉 (880,580)
- ・横浜市道路付属物 (歩道橋) 長寿命化修繕計画の推進
- ・地震時の歩道橋の損傷防止のための耐震対策の推進
- (4) 施設管理 30,000千円 (20,000)
- ・路面下空洞調査

4 橋梁・トンネル等の維持・管理

- (1) 橋梁の地震対策 558,000千円 (616,000)
- ・新横浜陸橋 (港北区) など
- (2) 橋梁の老朽化対策 5,219,213千円 (5,075,480)
- ・矢向第一陸橋 (鶴見区) など
- (3) トンネル等の補修 378,287千円 (392,091)
- ・相武隧道 (金沢区) など

5 バス路線の維持・充実に向けた走行環境整備事業

- 118,915千円 (25,468)
- ・戸塚区ドリームハイツ周辺地区
- ・青葉区西北部

8		(12款2項4目) 街路整備費		都市計画道路の整備等を実施します。
本年度		千円 22,696,890 ＜22,696,890＞		1 高速道路の整備 13,284,600千円（13,278,097）
前年度		26,573,314 ＜27,541,314＞		（1）横浜北西線（立替施行に伴う後年度支払い）
差引		▲ 3,876,424 ＜▲4,844,424＞		（2）横浜環状南線 関連街路
本年度の財源	国・県支出金	5,419,815 ＜5,419,815＞		2 幹線道路の整備 9,266,887千円（14,113,217）
	使用料			（1）都市計画道路の整備 5,345,887千円（8,530,217）
	諸収入等	2,589,005 ＜2,589,005＞		・鴨居上飯田線【本宿・二俣川地区、さちが丘地区】（旭区）
	市債	4,603,000 ＜4,603,000＞		・保土ヶ谷二俣川線【本宿地区】（旭区）
	一般財源	10,085,070 ＜10,085,070＞		・泥亀釜利谷線【寺前地区】（金沢区）
・＜＞は2月補正の一部を含む ・前年度予算の内訳は2月補正の一部を含む				・横浜逗子線【釜利谷六浦地区】（金沢区）
				・東京丸子横浜線【綱島地区】（港北区）
				・山下長津田線【鴨居地区】（緑区）
				・恩田元石川線【鉄地区】（青葉区）
				・環状3号線【中田地区】（泉区）
				・桂町戸塚遠藤線【上倉田戸塚地区】（戸塚区）
				・桜木東戸塚線【平戸地区】（戸塚区） など
				（2）連続立体交差事業 3,921,000千円（632,000）
				・相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業（旭区）
				（3）一般財団法人横浜市道路建設事業団への補助 0円（2,241,000）
				（4）一般財団法人横浜市道路建設事業団が保有する道路資産の購入 0円（2,710,000）
				3 橋梁の保全等 145,403千円（150,000）

9	(12款2項5目) 高速道路等整備費		市民生活の利便性の向上、経済活動の活性化に向け、高速道路ネットワーク整備を積極的に進めるとともに、高速道路に関する道路の整備等を進めます。 横浜環状道路の南線及び横浜湘南道路については関連街路を含め引き続き整備を進めます。
本年度		千円 92,461	
前年度		187,174	
差引		▲ 94,713	
本年度の財源	国・県支出金	0	
	使用料	0	
	諸収入等	94,878	
	市債	0	
	一般財源	▲ 2,417	

<u>1 横浜環状南線関連街路整備事業費</u>	4,111千円	(101,976)
<u>2 高速道路調査事務費等</u>	88,350千円	(85,198)

10	(12款2項6目) 道路費負担金		国直轄事業（国道）に対して、道路法にもとづき負担金を支出します。
本年度		千円 4,630,662	
前年度		6,356,332	
差引		▲ 1,725,670	
本年度の財源	国・県支出金	119,000	
	使用料	0	
	諸収入等	0	
	市債	4,511,000	
	一般財源	662	

<u>1 国道468号横浜環状南線及び横浜湘南道路</u>	3,595,333千円（5,129,666）
・首都圏中央連絡自動車道等の改築 （幹線道路ネットワーク整備）	
<u>2 国道16号電線共同溝の整備 など</u>	1,035,329千円（1,226,666）

11	(12款3項1目) 河川管理費		
	本年度	千円 1,070,203	
	前年度	1,394,900	
	差引	▲ 324,697	
本年度の財源	国・県支出金	0	
	使用料	166,080	
	諸収入等	2,813	
	市債	0	
	一般財源	901,310	
河川、水路等の点検や補修を適切に行うとともに、効率的な維持管理のため、計画的な保全を推進します。水防災情報システムによる確実な水位情報等の提供により、水防体制の強化を図ります。 1 水政事業費 61,886千円 (88,013) ・河川・水路の占用許可システムの保守管理 ・水辺環境の美化活動に対する補助 ・水辺愛護会全体交流会の開催 ・川づくりコーディネーター制度の推進 など 2 水防事業費 79,523千円 (79,851) ・水位計等の設置・更新、水防災情報システムの保守管理 ・親水拠点に設置されている警報装置の保守管理 ・水防資器材の備蓄・整備 など 3 河川・水路等維持管理事業費 828,794千円 (798,036) ・堆積土砂の掘削 ・樹木伐採、除草 ・デジタル技術を活用したシステム導入 ・護岸、管理用通路、転落防止柵等の補修 ・ポンプ設備等の点検、補修、部品交換 など ※「河道等安全確保対策事業費」は、本年度より 12款3項2目（河川整備費）へ一部移動 0千円 (429,000) 4 河道等安全確保緊急対策事業 ・計画的な河道等の土砂掘削 100,000千円 (0)			

12	(12款3項2目) 河川整備費		
	本年度	千円 2,638,576 〈3,604,576〉	
	前年度	1,991,576 〈3,562,576〉	
	差引	647,000 〈42,000〉	
本年度の財源	国・県支出金	966,000 〈1,589,000〉	
	使用料	0	
	諸収入等	0	
	市債	576,000 〈919,000〉	
	一般財源	1,096,576 〈1,096,576〉	
激甚化、頻発化する水害に対し市民の生命・財産や都市機能を守り、市民の安全・安心を確保するため、「流域治水」の基盤となる河川改修や流域貯留施設の整備を推進します。また、河川管理施設の長寿命化対策として計画的な設備の更新等を実施します。さらに、治水機能を万全にするため、河道等の掘削及び除草等を行います。 1 河川改修 2,190,576千円 〈3,156,576千円〉 (3,335,576) (1) 大規模特定河川事業費 ・今井川 護岸改修、保土ヶ谷橋橋梁設計 など ・帷子川 護岸改修、橋梁新設、護岸設計 など (2) 都市基盤河川改修事業費 ・今井川 護岸改修、橋梁架替え、用地補償など ・帷子川 護岸改修、支障移設 など ・阿久和川 護岸改修、用地補償 など ・和泉川 管理用通路整備、台帳整備 など (3) 準用河川改修事業費 ・日野川 護岸改修、用地補償 など 2 流域貯留浸透事業費 13,000千円 (115,000) ・宮古A雨水調整池 既設雨水調整池容量拡大 など 3 河川改良・老朽化対策事業費 など 104,000千円 (112,000) ・ポンプ排水型遊水地の長寿命化 ・河川保全計画に基づく護岸の長寿命化 4 河道等安全確保対策事業費 331,000千円 (0) ・河道内及び雨水調整池における堆積土砂掘削と除草 など			
・〈 〉は2月補正の一部を含む ・前年度予算の内訳は2月補正の一部を含む			

13	(17款) 特別会計繰出金		自動車駐車場事業費会計、公共事業用地費会計及び生活交通バス路線維持支援事業に繰り出します。
	本年度	千円 898,463	
	前年度	1,044,671	
	差引	▲ 146,208	
本年度の財源	国・県支出金	0	
	使用料	0	
	諸収入等	0	
	市債	0	
	一般財源	898,463	

- 1 自動車駐車場事業費会計繰出金 236,959千円 (326,189)
・自動車駐車場事業費会計への繰出金
- 2 公共事業用地費会計繰出金 529,137千円 (562,756)
・都市開発資金の償還のための公共事業用地費会計への繰出金
- 3 横浜市生活交通バス路線維持支援事業
・自動車事業会計への繰出金 132,367千円 (155,726)

14	(特別会計) 自動車駐車場事業費会計		安全で円滑な道路交通の確保のため、路上駐車対策として、6箇所の市営地下駐車場の管理運営を行います。
	本年度	千円 350,799	
	前年度	474,698	
	差引	▲ 123,899	
本年度の財源	国・県支出金	0	
	指定管理者収入	85,535	
	諸収入等	28,305	
	市債	0	
	一般会計繰入金	236,959	

- 1 自動車駐車場運営費 212,175千円 (229,844)
四輪 二輪
・福富町西公園地下駐車場 184 台
・ポートサイド地下駐車場 200 台
・馬車道地下駐車場 200 台 25 台
・山下町地下駐車場 193 台 26 台
・日本大通り地下駐車場 200 台
・伊勢佐木長者町地下駐車場 200 台
- 2 公債費 133,624千円 (239,854)
- 3 予備費 5,000千円 (5,000)

令和5年度予算編成における「道路局の主な財源創出の取組」

令和5年度予算編成は、持続可能な市政運営を実現するため、「財政ビジョン」「中期計画」「行政運営の基本方針」の『3つの市政方針』に基づく最初の予算編成として、全庁一丸となって『創造・転換』を理念とする財源創出に取り組みました。

財源創出の内容	件数	財源創出額
施策・事務事業の徹底した見直し		
委託内容の見直しにより経費を削減	1 件	700千円
市役所内部経費の更なる見直し		
実績に基づく事務経費の見直しにより経費を削減	7 件	4,867千円
業務体制の見直しにより人件費を削減	1 件	2,529千円

道路局独自の取組

横浜環状北西線の道路構造物を売却した収入（426億円）を、事業費平準化のために実施している立替施行の支払い（R3～R6：R5は116億円）の財源として活用しています。

債務負担行為

※「令和5年度 予算に関する説明書」から抜粋

事項	限度額	令和4年度末までの 支出見込額		令和5年度以降の 支出予定額		左の財源内訳			
		期間	金額	期間	金額	特定財源			一般財源
						国庫支出金	市債	その他	
	千円		千円		千円	千円	千円	千円	千円
高速横浜環状北西線シールドトンネル工事に関する協定の締結に係る予算外義務負担	46,000,000	平成27年度から令和4年度まで	28,289,808	令和5年度	7,638,000	—	—	2,256,000	5,382,000
				令和6年度	7,638,000	—	—	2,255,915	5,382,085
高速横浜環状北西線設備工事に関する協定の締結に係る予算外義務負担	26,000,000	平成30年度から令和4年度まで	14,629,260	令和5年度	3,748,000	—	—	—	3,748,000
				令和6年度	2,802,000	—	—	—	2,802,000
高速横浜環状北西線立坑内部構築工事に関する協定の締結に係る予算外義務負担	2,000,000	令和元年度から令和4年度まで	675,292	令和5年度	214,000	—	—	—	214,000
				令和6年度	1,060,000	—	—	—	1,060,000
末吉橋架替工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	6,200,000	令和元年度から令和4年度まで	1,036,149	令和5年度	790,000	209,000	171,000	410,000	—
				令和6年度から令和10年度まで	4,373,851	1,103,809	902,000	2,366,926	1,116
環状3号線（杉田港南台地区）電線共同溝の整備及び維持管理等の実施に係る予算外義務負担	3,400,000		—	令和5年度	37,994	37,994	—	—	—
				令和6年度から令和22年度まで	3,341,436	1,811,436	—	—	1,530,000
（新規） 道水路等境界調査業務委託契約の締結に係る予算外義務負担	86,000		—	令和6年度	86,000	—	—	3,000	83,000
（新規） 道路用地管理工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	15,000		—	令和6年度	15,000	—	—	—	15,000
※1,500万円全額が【平準化債務】									
（新規） 道路修繕工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	1,900,000		—	令和6年度	1,900,000	—	—	—	1,900,000
※うち、10億5,000万円が【平準化債務】									
（新規） 交通安全施設等整備及び補修工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	410,000		—	令和6年度	410,000	—	—	—	410,000
（新規） 都市計画道路用地管理工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	81,000		—	令和6年度	81,000	—	—	—	81,000
（新規） 都市計画道路桜木東戸塚線（平戸地区）トンネル工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	10,000,000		—	令和6年度から令和13年度まで	10,000,000	5,500,000	4,500,000	—	—
（新規） 河川・水路等修繕工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	58,000		—	令和6年度	58,000	—	—	—	58,000
※5,800万円全額が【平準化債務】									
（新規） 河川整備工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	390,000		—	令和6年度	390,000	260,000	130,000	—	—
（新規） 河川事業用地整備工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	12,000		—	令和6年度	12,000	—	—	—	12,000
※1,200万円全額が【平準化債務】									

※太枠内は23ページのコラムに記載した【平準化債務】です。

